



Women Empowerment Report 2022

女性のエンパワーメント 年次レポート2022



.WE LEAGUE

本レポートの作成にあたり

2020年10月23日、日本サッカー協会（JFA）と日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）は、国連グローバル・コンパクトとUN Womenが共同で作成した「女性のエンパワーメント原則（Women's Empowerment Principles / WEPs）」に署名し、参加することとしました。

日本国内の競技団体の参加はJFAとWEリーグが初めてであり、WEPsに参加することによって女性が力を発揮できる労働環境・社会環境を整備することへの強い意思を示すとともに、サッカー界での女性活躍を推し進めながらスポーツ界を牽引していきたいと考えています。

署名以前より、また署名を契機として、さまざまな取り組みを行っていますが、特に7つの原則に従ってその取り組みを年次でしっかりフォローするために、年次レポートを作成することとしました。すぐに成果が出るものばかりではありませんが、取り組みを統合してパワーを持って推進していくこと、取り組みを内外に明示すること、成果や課題をフォローしていくことを目的としています。

署名した2020年をゼロ年として、昨年は1年目の年次レポートを作成し、発信しました。こうした形で作成することで、このトピックに関してまとまった形で発信でき、サッカー界の皆さんに届け、お伝えすることができた実感がありました。

今回、2年目の年次レポートを作成しました。急激に大きな変化が起きるものではありませんが、一歩一歩、サッカーファミリーの中でさらに取り組みを深めていきます。

CONTENTS

- 03 ごあいさつ
- 04 女性のエンパワーメント原則（WEPs）とは、WEPsの7原則
- 06 署名の背景・目的

〈活動報告〉

- 08 [原則1] トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進
- 14 [原則2] 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃
- 24 [原則3] 健康、安全、暴力の撤廃
- 27 [原則4] 教育と研修
- 33 [原則5] 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
- 38 [原則6] 地域におけるリーダーシップと参画
- 39 [原則7] 透明性、成果の測定、報告
- 40 女子サッカーインフォメーション（2022年トピックス）

ごあいさつ



公益財団法人
日本サッカー協会 (JFA)
会長
田嶋幸三

日 本サッカー協会 (JFA) と WE リーグが日本の競技団体の先陣を切って「女性のエンパワメント原則 (WEPs)」に署名してから2年が経過しました。WE リーグと各クラブは女子サッカーの普及と強化を推し進めながら、「WE ACTION」などを通じて WEPs や SDGs (持続可能な開発目標) を達成すべく取り組んでいます。

JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラムも第3期を修了し、これからのスポーツ界をリードしていく人材を輩出しています。JFA の女性理事も5人に増え、都道府県サッカー協会にも新たな女性の副会長や専務理事が誕生するなど、徐々にではありますが女性管理職、役員の登用も進んでいます。

WEPs は、JFA や WE リーグの運営や事業を行う上で重要な指標であり、組織として女性の活躍推進に取り組む原動力になります。今後も女子サッカーの普及、選手育成・強化、サッカー環境の整備に力を注ぎながら、女性のキャリアアップを可能にする教育・研修の実施、地域社会への参画や連携、ステークホルダーとのエンゲージメント強化を図るなどして、女性たちが多様な個性や能力を発揮できる風土づくりを目指していきます。

WEPs が掲げる原則を達成できたとき、WE リーグもプロスポーツとして確固たる地位を確立し、日本、そして世界の女性プロスポーツを牽引する存在になると考えています。



公益社団法人
日本女子プロサッカーリーグ (WE リーグ)
チェア
公益財団法人日本サッカー協会 (JFA)
副会長
高田春奈

日 本初の女子プロサッカーリーグである WE リーグは、女子サッカーの競技レベルの向上と合わせて、女性活躍社会の推進を目的にスタートしました。初年度となる2021-22シーズンは11チームが参加し、全110試合を開催。選手一人ひとりがピッチで躍動し、見る人たちに勇気や希望を与えてくれました。

また WE リーグが大切にしているピッチ外の活動「WE ACTION」においても、パートナー企業、自治体、ファン・サポーター、ホームタウンの人々とともに、社会問題について考え、問題を提起し、その解決に向けた行動を起こしてくれました。

今、世界の多くの国と地域が女子サッカーに力を入れ始めており、多くの女子アスリートが輝きを放っています。WE リーグの設立が、日本の女子サッカーのレベル向上に寄与し、海外のリーグと渡り合える存在になること。そうすることで、日本で育った選手だけでなく、日本に来てプレーをする外国籍選手にとっても、この国が安心して輝ける場所になるものと思います。

先進国でありながらジェンダーギャップの大きい日本において、WE リーグの果たす役割は大きいと信じています。課題は多くありますが、選手やここで働く女性たちの活躍の場所を整え、その姿によって老若男女多くの人たちの心を動かし、一人ひとりが輝く多様性の確保された社会づくりに貢献できるよう努めてまいります。



UN Women
日本事務所 所長
石川雅恵

2022 年は、スポーツ試合への観客動員も再スタートし、あらためてスポーツの素晴らしさを実感する年になったのではないのでしょうか。ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワメントのために活動する UN Women (国連女性機関) は、スポーツを通じて、また同時にスポーツ界におけるジェンダー平等の達成に取り組んでいます。これからはコロナ禍でさらに悪化してしまったジェンダー平等を、差別やハラスメントに怯えることなく安心してプレーできる環境と、女性が男性と同じ収入を得られ、クラブの運営など意思決定に参画する仕組みをつくるための投資をすることによって推進していく必要があります。

今年、JFA で理事を務める女性が増えたことは大きな前進です。昨年発足した初の女子プロサッカーリーグである WE リーグは2シーズン目が開幕し、来シーズンは参画チームが増えることが決定しているとのことで非常にうれしく思います。サッカー界で活躍する女性・女の子が増えることは、次世代のサッカー好きな女の子たちの希望となります。スポーツ競技界、スポンサーを含む関連業界やスポーツ報道の世界は、まだまだ男性中心の環境です。UN Women が主導する「女性のエンパワメント原則 (WEPs)」の署名団体として、JFA と WE リーグがこれからもジェンダー平等な社会に向けてスポーツ界を牽引してくださることを期待しています。

女性のエンパワメント原則とは？

[Women's Empowerment Principles / WEPs]

「女性のエンパワメント原則 (WEPs)」とは、企業がジェンダー平等を経営の核に位置付け、自主的に取り組むための行動指針です。持続可能で包摂的な経済成長に不可欠であるジェンダー平等を達成すると同時に、企業の経済的・社会的価値を高めることを目指しています。7つの原則は、「職場 (社内)」「市場 (マーケットプレイス)」「地域コミュニティ (社会)」を網羅し、企業が社会的責任のある主体としてジェンダー平等に取り組むことを推奨しています。

2010年3月に国連グローバル・コンパクトと国連婦人開発基金 (UNIFEM、現 UN Women) が共同で策定し、2018年より、UN Women が事務局 (<https://www.weps.org/>) を担っています。

WEPsの対象は、企業 (民間、公共、政府系、

組合、スタートアップ)、業界団体、商工会議所です。法令に基づいて設立された組織体であれば、規模や業界は問いません。署名、実施、報告の3つが基本的なステップです。署名をすることでコミットメントを表明し、7つの原則に沿った取り組みを行い、進捗状況と成果を自発的に報告することが期待されます。

WEPsは、2010年3月8日に策定された女性の活躍推進に積極的に取り組むための行動原則で、企業が現行の慣習や基準、行動を調査し分析するための実践的な手引きとなります。世界でWEPsに参加している企業/団体は7264 (2021年は7163) で、日本国内では2021年6月現在、270の企業/団体が参加しています。

WEPsの7原則

原則 1



▶ 企業トップによるリーダーシップ

本レポートでは→ トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進

ジェンダー平等と女性のエンパワメントを重要経営課題として位置付け、マネージメントと事業活動に浸透させるには、企業トップのコミットメントとリーダーシップが不可欠です。CEOや経営トップ層が、企業の方針、経営戦略、日々の業務、そして組織文化にWEPs7原則を取り入れることでジェンダー平等と女性のエンパワメントを実現するという強い意思を社内外に示すと共に、自らがその取り組みをリードしましょう。

原則 2



▶ 職場におけるジェンダー平等

本レポートでは→ 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

性別に関わらず、すべての労働者に対して公平で差別のない待遇を保障することは、国際的に認められた人権の基準の基本原則です。公平な職場環境は、多様な人材の獲得、定着率・満足度の向上、生産性の向上、より良い意思決定にも寄与します。方針、戦略、組織文化、慣行に存在するあらゆる形態の差別の撤廃は、WEPsにおける最も重要な取り組みの一つです。雇用形態による賃金、能力開発、職場でのキャリアの可能性の差をなくし、全ての従業員が少なくとも基礎的な生活保障とやりがいを持って働ける環境を整備しましょう。また、従来の性別役割分業意識や男性稼ぎ手モデルを前提とした制度、慣行、働き方の変革を通じて、男女が家事・育児・介護などの家庭内のケア責任を分かち合えるようにすることが求められています。

本レポートにおける各原則の ステートメントについて

WEPsは企業やさまざまな団体を対象に各原則を定めていますが、JFAとWEリーグは一般的な企業とはやや異なる組織体であることを鑑みて、各原則の行動方針はそのままに、項目名称を実際のアクションに合わせる形で変更しています。

原則 3



▶ 従業員の健康、ウェルビーイング、安全

本レポートでは→ 健康、安全、暴力の撤廃

雇用主は、性別に関わらずすべての従業員の心身の健康、安全、ウェルビーイングの維持と促進に重要な役割を担います。セクシュアル・ハラスメント及びあらゆる形態の暴力が放置されることにより、特に、女性従業員は大きなダメージを受けます。休職などで収入が減少したり、昇進の機会を逃したり、心身の健康を損なったりする可能性があるからです。従業員の欠勤や生産性の低下といった形で企業にも損失が生じます。適切に対応しましょう。

原則 4



▶ 女性のキャリアアップを可能にする教育と研修

本レポートでは→ 教育と研修

女性が能力を伸ばし、経験を積み、昇進できるようにするためには、女性を対象とした育成プログラムと、すべての従業員を対象としたジェンダーギャップに関する教育の両方が不可欠です。女性の育成プログラムでは、キャリアアップを目的とした研修、ネットワーキング、メンタリングを組み合わせることで、管理職・役員クラスのパイプラインを強化することができます。従業員向けの教育では、ジェンダー平等の推進が自社の方針や事業とどう結びついているかを理解し、共通の理念と価値観を醸成すること、誰もが持つアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）がいかに女性のキャリアアップの阻害要因になり得るかを理解し、対処できるようにすることが重要です。

原則 5



▶ サプライチェーン・マネージメントとマーケティング

本レポートでは→ 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

この原則は、企業が社内だけではなく、サプライチェーンを含む「市場（マーケットプレース）」や社会規範の形成に対しても責任のある主体であることを前提としています。女性と女の子に対するネガティブで画一的な固定観念は、ジェンダー平等の実現を阻む最も大きな要因の一つです。企業広告が、こうした固定観念や社会規範の形成に大きな影響を及ぼします。女性と男性、女の子と男の子が、従来の固定観念にとらわれず、現代的で多様な役割を担っている様子を表現することで、社会に深く根付いているジェンダーバイアスに変革を起こすことができます。インクルーシブ（包摂的）なサプライチェーン方針や、多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じて、企業はさまざまなビジネスパートナーとともにジェンダー平等を推進することができます。

原則 6



▶ 社会貢献活動とアドボカシー（啓発）

本レポートでは→ 地域におけるリーダーシップと参画

この原則は、企業が社内だけではなく、事業活動を展開する「地域コミュニティ」や社会に対しても責任のある主体であることを前提としています。国際社会共通の目標であるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて、企業が自らの資源や影響力を活用することが期待されています。近年、SDGsへの関心の高まりとともに、多くの消費者が商品やサービスを購入する際に、「ジェンダー平等の視点に根差した事業活動を行っている企業」や「ジェンダー問題や女性支援に取り組む企業」を選んでいるという動向もあります。

原則 7



▶ 成果のモニタリングと報告

本レポートでは→ 透明性、成果の測定、報告

WEPsに署名することによって表明したジェンダー平等と女性のエンパワーメントへのコミットメントを遂行する際に重要なのは、透明性と説明責任です。定期的に進捗状況や成果をチェックする仕組みをつくり、報告していきましょう。数値で表せない成果もありますが、測定することで、進捗状況の把握と次のステップにつなげるための評価が可能になります。また、積極的な報告や情報開示は、投資家、消費者、人材からの評価を高めます。

女性活躍社会実現のために戦略的な取り組みが必要

2020年10月23日、JFAとWEリーグは、スポーツ団体では初となるWE Psに署名を行い、女性活躍に対して、組織として積極的に取り組んでい



WE Ps署名を行った田嶋幸三JFA会長（左）と岡島喜久子WEリーグチェア（右）

くことを内外に明示しました。（参照：https://www.jfa.jp/women/we_league/news/00025566/）

「ジェンダー平等」は、長きにわたり、世界中で取り組み続けられている大きな課題です。日本においても、「女性活躍社会」が日本社会の中での長年の課題であり、その実現に向けて社会全体での取り組みがなされています。一方で、なかなか改善に進まない非常に根深い課題でもあります。グローバルジェンダーギャップ指数（下表および次ページ上表参照）が示すように、**相対的に見て日本の女性活躍は、2022年において146カ国中116位（2021年は156カ国中120位）と非常に遅れており、依然として先進国の中でも最下位です。**思うような変化が起こりにくい中で、「もう女性活躍ではないのでは」という声も聞かれます。

日本のスポーツ界においても同様に、女性の人材活用は遅れています。スポーツ庁が出した「スポーツ団体ガバナンスコード」〈中央競技団体向け〉では、原則2の中で、「組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること」とされており、女性理事の目標割合

（40%以上）が設定されました。変化を起こすためには、こうした目標割合の設定が必要であるということです。

サッカー界の状況も同様です。サッカーは、ある意味男性の競技の代表格とも言えるスポーツであり、その中で女性も楽しむ競技となってきた歴史があります。世界的に見ても、競技人口も関わる人も、その数に圧倒的な差があります。

世界のサッカー界においても、“Women in football”、サッカー界での女性活躍は、ホットトピックとして積極的に議論され、取り組まれています。社会的に女性活躍が進んだ国であっても、依然として大きな課題です。それでも世界でさまざまなパワフルな女性たちが積極的に取り組んでいる姿があり、非常に刺激になります。

日本サッカー界でも、女性役員、女性人材が不足しています。JFAは、中央競技団体として、スポーツ団体のガバナンスコードの目標達成に向け、取り組んでいく必要があります。社会的にこの課題は広く意識されており、さまざまなところで女性人材を積極的に登用しようという動きが近年増えてきているのは確かです。一方で、せっかく登用しようと思っても、候補者がいない、勧めても女性たちが積極的にそれを受けたがらない、という声も多く聞かれます。こうした側面も、この課題の典型的な部分であると言えます。それも含めて、戦略的な育成・強化とマインド変革が必要です。

▶ ジェンダーギャップ指数(2022) 上位国及び主な国の順位

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
1	アイスランド	0.908	0.892	—
2	フィンランド	0.86	0.861	—
3	ノルウェー	0.845	0.849	—
4	ニュージーランド	0.841	0.84	—
5	スウェーデン	0.822	0.823	—
10	ドイツ	0.801	0.796	↑1
15	フランス	0.791	0.784	↑1
22	英国	0.78	0.775	↑1
25	カナダ	0.772	0.772	↓1
27	米国	0.769	0.763	↑3

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
63	イタリア	0.72	0.721	—
79	タイ	0.709	0.71	—
83	ベトナム	0.705	0.701	↑4
92	インドネシア	0.697	0.688	↑9
99	韓国	0.689	0.687	↑3
102	中国	0.682	0.682	↑5
115	ブルキナファソ	0.659	0.651	↑9
116	日本	0.65	0.656	↑4
117	モルディブ	0.648	0.642	↑11

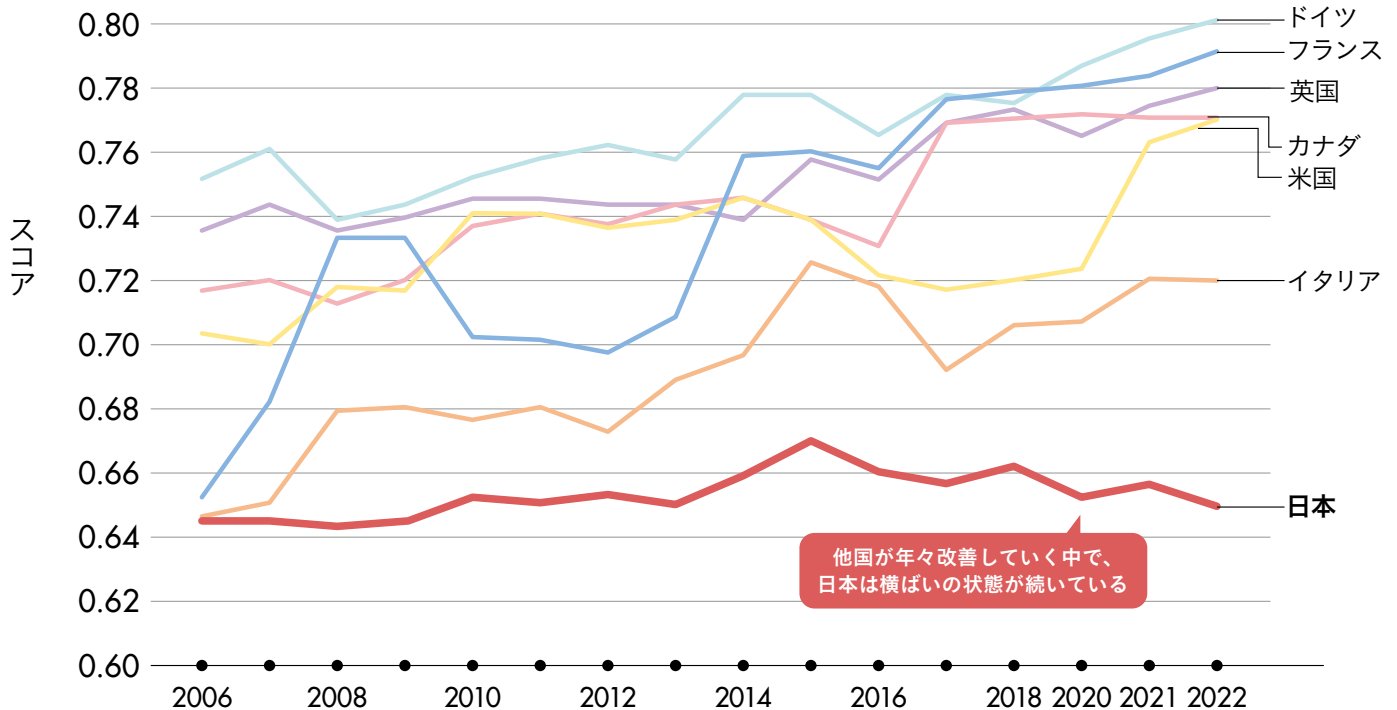
（世界経済フォーラム発表）

G 7各国の ジェンダーギャップ指数比較

▶ 各分野における日本のスコア

分野	経済	政治	教育	健康	総合
スコア	0.564	0.061	1	0.973	0.365
昨年のスコア	0.604	0.061	0.983	0.973	0.656
順位	121位	139位	1位	63位	116位

(世界経済フォーラム発表)



他国が年々改善していく中で、日本は横ばいの状態が続いている

※2018年公表まではレポートが公表されていたが、2019年公表分は「GGGR 2020」となり、2020年のインデックスとして公表されたため、年の数字が連続していない

積極的かつ継続的な取り組み、サッカーファミリーとの共有

その契機の一つとして、JFAは日本女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」発足を決め、2021年9月に開幕しました。

WEリーグは、「Women Empowerment League」という名の通り、社会的意義を重視し、「女性活躍社会の牽引」を設立意義の一つに掲げ、女性役員・スタッフなどの配置目標も設定して取り組み始めています。「牽引する」とは、この難しい課題に対し、自ら具体的に実行して成果を出していき、もって社会に提示していくことを目指すということです。

数値目標を掲げることで、いわゆる「クォータ制」にはさまざまな議論がありますが、変化を起こすきっかけを得るためには重要な「ポジティブアクション」です。そうする一方で、それを確実に機能させるために、研修などのサポートを行っていくこととしています。ゴールは「配置すること」ではなく、多様性の意義を、サッカー

界で積極的に実践することで、実感し、それを当たり前にしていくこと、そしてスポーツ界や社会へと発信していくことです。

社会や文化に深く根ざした非常に重大なトピックであるため、何かに取り組み始めたからといってすぐに変化が起き、解決に近づくような簡単なものではありませんが、確実に身をもって実行していくこと、積極的にトライしていくこと、粘り強く継続的に取り組んでいくこと、それを広くサッカーファミリーと共有していくことで、多様性の意義を実現し、実感できるサッカー界を目指していきます。

マイノリティの中の最大のマジョリティと言われる女性がこれを実現することで、真の多様性の推進、サッカー・スポーツのさらなる発展に寄与していくことが私たちの願いです。

原則 1



取り組み報告

トップのリーダーシップによる ジェンダー平等の促進

JFA SDGsの取り組み

2021年に創立100周年を迎えた JFA は、次の100年に向けて、「持続可能な開発目標(SDGs)」の取り組みやサッカーを通じた社会貢献活動の総称を「アスパス!」とし、「環境、人権、健康、教育、地域」の5つの重点領域において、戦略的に各施策を推進しています。

「アスパス!」は“地球 (earth) の明日 (未来) のために私たち (us) がつなぐパス”の意を込めた造語で、サッカーファミリーが世代や時代を超えて“パスを繋いでいく”という強い決意を表現しています。ロゴには地球でできたサッカーボールが描かれ、サッカーファミリーが人々や動物、環境などのすべてと一つのチームとなって、地球の明日をつくっていくことをイメージし、制



作しました。

年齢や性別、障がい、人種にかかわらず、だれもが・いつでも・どこでもスポーツを楽しむ環境を整備するグラスルーツ活動、暴力・暴言の根絶、リスペクト・フェアプレーの啓発、子どもたちの外遊びや地域コミュニティづくりにつながる「JFAグリーンプロジェクト」。また、子どもたちの心の教育に貢献する「JFA こころのプロジェクト」や「女性リーダーシップ・プログラム」を通じて次世代の人材育成にも力を入れています。



JFA 公式 Web サイト

参照：https://www.jfa.jp/social_action_programme/

JFA なでしこvision

「JFA2005年宣言」を受けて、女子サッカーをどのように発展させていくかというビジョンである「なでしこvision」を2007年に策定し、定期的に改訂を重ねています。

2015年の改訂では、下記の女性活躍に言及する文言を追加。2022年に新たに改訂を加え、現在に至ります。

そして、女性が輝く社会を

サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。女子サッカーがその固有の価値で、日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツそして社会の発展に貢献する。



JFA 公式 Web サイト

参照：https://www.jfa.jp/women/nadeshiko_vision/

なでしこ vision 世界のなでしこになる

「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、そして、女子サッカーを文化にするために、「世界のなでしこになる」というビジョンのもと、日本サッカーに関わる全ての人々が共有し、実行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを女性の身近なスポーツにする。

グラスルーツからトップに至る環境を充実させ、全国どこに住んでいても、何歳でも、サッカーにアクセスでき、楽しみ続けられる環境をつくる。
選手、指導者、審判員、運営など、生涯かわり続けられる環境をつくる。
女子サッカーの価値を高め、普及から花開かれるスポーツ、女の子達が夢を抱けるパスウェイとなる。

2023年までに、登録女子プレーヤーを200,000人にする。

2. なでしこジャパンが世界のトップクラスであり続ける。

U-20/U-17ワールドカップに常時出場、ひとつでも多くの試合を経験し、メダルを目指す。
ワールドカップ/オリンピックに常時出場し、優勝を目指す。
WEリーグを成功させ世界一のリーグにする。

再び世界一へ。

3. 世界基準の「個」を育成する。

全チーム、47FAでの、U12・15年代からの個の育成が、なでしこジャパンを世界で輝かせる。
なでしこジャパンにつながる、タレントの発掘・育成システムを確立し、常に最適化させ続ける。
女子サッカーに関わる人材、特に女性の指導者・審判員の数を増やし、レベルアップを図り、世界で活躍する人材を輩出する。

そして、女性が輝く社会を

サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。
女子サッカーがその固有の価値で、日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツそして社会の発展に貢献する。

「なでしこ」らしく
ひたむき 心が強い 明るい 礼儀正しい
「なでしこ」らしい選手になろう!
「なでしこ」らしい選手を育てよう!

JFA JFA女子サッカーデー

国際連合（国連）が定める毎年3月8日の「国際女性デー」を、2019年より「JFA女子サッカーデー」と定め、女子サッカー、女性活躍に向けて、「世界でいちばんフェアな国になろう」というスローガンを掲げ、社会面と普及面の両面で取り組みを行っています。47都道府県サッカー協会にも呼び掛け、それぞれ活動をしています。

2022年3月には、JFAのほかに、WEリーグ、なでしこリーグ、女子Fリーグといった女子競技組織だけでなく、日本ビーチサッカー連盟、日本障がい者サッカー連盟、日本フットボールリーグ、Fリーグといった各連

盟とも連携して実施しました。

アジアサッカー連盟（AFC）でも、JFAに先立って、「女子サッカーデー」としてアジア全体で女子サッカーに関わる活動をする日としています。JFAとして、その活動とも連動しています。

JFA 女子サッカーデー



JFA 公式 Web サイト

参照：<https://www.jfa.jp/women/womensfootballday2022/>

JFA | .WE LEAGUE WEリーグ開幕

「これは新しい日本のキックオフだ」を合い言葉に、2020年7月1日、WEリーグが設立されました。正式名称は「Women Empowerment League」。リーグを核として、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指した、日本初的女子プロサッカーリーグです。

そして2021年9月11日、プレーでも、社会への貢献でも、世界一の女子サッカーリーグへまい進する「Yogibo WEリーグ」が開幕。北は仙台、南は広島まで、9都県から11クラブが参加。プレナスなでしこリーグからの9クラブと女子チームが新設された2クラブの編成でした。それまで男子チームのみを保有していた大宮アルディージャとサンフレッチェ広島は、WEリーグ設立をきっかけに女子チームを新設しました。

欧米の主要シーズンに合わせて秋春制を採用したのもWEリーグの特徴です。ヨーロッパでは、ジェンダー平等の観点から、多くの主要クラブで女子チームを保有する動きが近年急速に進んでいます。2022年3月のUEFA女子チャンピオンズリーグ2021-22の準々決勝、FCバルセロナ対リアル・マドリードでは9万1533人の観客を動員しました。またアメリカでは、男女同一報酬（EQUAL PAY）に関する選手たちの運動により、アメリカサッカー連盟は、女子選手が代表チームで活動する際の報酬を男女同一にする内容の新たな労働協約に、男女それぞれの選手会と合意しました。世界において、女子サッカーの価値が高まっている中、すべての世代で世界



©WEリーグ



©WEリーグ

大会を制覇した日本女子サッカー界における、WEリーグのこれからの期待がかかっています。

初年度の2021-22シーズンは、INAC神戸レオネッサが優勝。WEリーグアウォーズでは、個性豊かな衣装に身を包んだINAC神戸の選手たちが、WEリーグトロフィー「Women Empowerment Trophy」を掲げました。



WEリーグ公式 Web サイト

参照：<https://weleague.jp/>

.WE LEAGUE WEリーグの名称とロゴ



WE リーグは「Women Empowerment League」の略称です。この名称には日本に“女子プロサッカー選手”という職業が確立され、女子が「サッカー選手」を夢見ることができる社会、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指す、という思いが込められています。また、ブランドモチーフの「●」（ドット）は、「サッカーの躍動感」「新たなつながり」「これからの日本」を表しています。

.WE LEAGUE WEリーグの理念とビジョン

WE リーグは、「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」を理念としています。理念を具現化するために、理念へのコミットメントとして、リーグのみならず、一つ一つのクラブが、選手一人ひとりが、理念の推進に向けた意思表示を行っています。

理念の具現化には、リーグ戦の実施、女子サッカーチームの環境整備や選手育成といったサッカー事業と、社

会に働き掛ける社会事業の2つの要素が不可欠です。WE リーグでは、理念の実現に向けた3つのビジョンを策定しています。「VISION 1」であるサッカー事業と、「VISION 2」である社会事業の両輪をWE リーグの事業として定め、その2つのビジョンを支える事業基盤の構築を「VISION 3」として推進することで、理念の実現に向けて活動していきます。

理念

女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。

VISION 1

- ①世界トップ水準の競技力、選手・スタッフの輩出
- ②日本全国で女子サッカーの競技力のポトムアップの実現
- ③日本各地に女子がサッカーを楽しめる場を広げる

[サッカー事業]
VISION 1
世界一の女子サッカーを。

[社会事業]
VISION 2
世界一アクティブな女性コミュニティへ。

[事業基盤]
VISION 3

世界一のリーグ価値を。

VISION 2

- ①女性が起点となり、社会全体に前向きな変化を生み出す原動力になる
- ②スポーツの枠を超えて、個人、団体、企業の集まるプラットフォームとなる

VISION 3

- ①社会面、競技面の発展を支える、リーグ基盤（財政・組織）を確固たるものとする
- ②リーグの本質的価値を事業成果としてあらわす
- ③多種多様な働き方を内包した、社会のロールモデルとなる組織を実現する

.WE LEAGUE 理念推進のために設定した参入基準 ※[原則2]にも該当

リーグの理念を推進するために、下記の参入基準を設定しました（理念に関わる部分を抜粋）。

[法人を構成する人員における女性の登用]

当該クラブの運営にあたる法人を構成する役職員の50%以上を女性とする。同一法人内で複数のチームを運営している場合は、当該クラブの運営にあたる組織を明確に示すこと（入会から3年以内に達成すること）。

[役員における女性の登用]

当該クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも1人は女性とすること（取締役以上が望ましい）。

[トップチーム、アカデミーチームスタッフ]

コーチングスタッフ（監督またはコーチ）の中に女性指導者1人以上を含むこと。

[託児施設の設定]

ホームスタジアムに授乳室および託児施設を設置すること。

WE WEリーガークレド(行動規範)

2021年8月に、WEリーガークレド(行動規範)を発表しました。岡島喜久子チェアと各クラブの選手代表者11人が集まり、3月8日の国際女性デー/JFA女子サッカーデーに実施した「第1回 WE MEETING」を皮切りに、クラブ内でも議論を重ね、5カ月をかけて自分たち自身で「みんなが主人公になるためにプレーする」という言葉をクレドとして決定しました。

この言葉は、各クラブのキャプテンが2021-22シーズンのホーム開幕戦の選手宣誓として読み上げました。



WEリーグ公式 YouTubeチャンネル

クレド開発ミーティング~クレドができるまで~
参照: <https://youtu.be/9sJso6D7jvM>

WE 優勝チームに贈られる「WEリーグトロフィー」

「一人ひとりが輝く社会の実現」を目指すWEリーグは、下記のように長年続いた考え方を壊し、「未来の可能性」「エンパワーメント」を象徴するトロフィー「Women Empowerment Trophy」を製作しました。

WEリーグトロフィーは、岡島喜久子初代チェアや日本の女子サッカーを代表するさまざまな世代の選手や女性たちが、自身でぶつかってきた見えない「ガラスの

壁」をサッカーボールで壊すことから製作を開始。その壊れたガラスの破片を使って女性のガラス職人/デザイナーがトロフィーを完成させました。また、クリエイティブディレクター、プロデューサー、監督、カメラマン、音楽など、すべて女性のスタッフでトロフィーのメイキング映像を作成しました。

2022年5月8日、2試合を残して2021-22シーズンの優勝を決めたINAC神戸レオネッサが、初めてWEリーグトロフィーを掲げました。



WEリーグ公式 YouTubeチャンネル

WEリーグトロフィー「ガラスの天井」を壊す
参照: <https://youtu.be/CLIsDanQgKc>

なでしこリーグ なでしこリーグビジョン・ステートメント

なでしこリーグは、設立以来30年以上にわたり、日本女子サッカー界を牽引してきましたが、2021年にWEリーグが開幕し、最高峰のアマチュアリーグとなりました。

そこで、なでしこリーグでは、「これまで築き上げてきた歴史を継承しつつ、これからさらに魅力的なリーグに発展させていきたい」というリーグに関わる人々の思いを象徴するビジョンとステートメントを作成しました。なでしこリーグは、「普及」「地域」「多様性」をキーワ

ードに、女性が人生のさまざまなステージにおいてサッカーとともに活躍できるリーグを目指していきます。



なでしこリーグ公式 YouTubeチャンネル

なでしこリーグビジョン・ステートメントイメージムービー
参照: https://youtu.be/Grd_xEE6O50

JFA JFA規則:妊娠/出産に関わる契約上の不利益の禁止

選手・スタッフたちが妊娠や出産に関わることで契約上の不利益を被ることがないように、以下の事項を規則として定めています。

- 妊娠/出産した選手の各種権利の保障
- 妊娠/出産を理由にした契約破棄の禁止
- 妊娠/出産した選手に係る登録上の例外ルール
- 出産後にサッカー活動を再開した選手への配慮義務

.WE 理念推進日「WE ACTION DAY」

11クラブでスタートしたWEリーグでは、毎節、試合のないチームが1チームあります。試合のないクラブは理念推進活動を行う「WE ACTION DAY」として、シーズンを通じて1クラブ2回、活動を実施します。2021-22シーズンには、次ページの表のような活動が行われました。選手が企画から関わるクラブもありました。シーズン中に選手全員が関わるのは、WEリーグならではの活動です。

WEリーグアウォーズでは、「MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」を表彰しており、2021-22シーズンは、

ちふれASエルフェン埼玉が第11節に実施した「子どもたちの未来に夢や希望を！」が受賞。難しいバックグラウンドを持つ児童養護施設の子もたちと交流を行い、遊びと対話を通して、夢や希望を持って生きることの素晴らしさを伝えた活動が表彰されました。



WEリーグ公式 YouTube チャンネル

2021-22 WE ACTION DAYの様子
参照：<https://youtu.be/fxRTuAkI8bl>



自治体女性リーダーとのトークショー
(マイナビ仙台レディース)



中学生向けスキルアップスクール
(三菱重工浦和レッズレディース)



障がい者サッカー体験
(大宮アルディージャVENTUS)



児童養護施設交流
(ちふれASエルフェン埼玉)



フードバンク仕分け作業サポート
(ジェフユナイテッド市原・千葉レディース)



ポッチャ大会・サッカー教室
(AC長野パルセイロ・レディース)



「女子プロサッカー選手」職業体験
(日テレ・東京ヴェルディベレーザ)



障がい者とのサッカー交流
(ノジマステラ神奈川相模原)



「サッカーに関わる仕事」トークショー
(アルビレックス新潟レディース)



地域清掃活動
(INAC神戸レオネッサ)



発達障がい児とのサッカー交流
(サンフレッチェ広島レジーナ)

2021-22 WE ACTION DAY

クラブ名	実施節	実施日	イベント名	内容	
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	第1節	2021年 9月12日	YouTubeライブ配信「WE ACTION フォーラム～一人ひとりが輝く社会とは～」	千葉市女性副市長、選手とのパネルディスカッション	
			「フードバンク」での仕分けボランティア	試合会場などで集めた食品の仕分け	
			フクダ電子アリーナの清掃活動	ホームスタジアム付近の清掃活動	
INAC神戸レオネッサ	第2節	9月19日	INACファミリー六甲アイランドクリーンアップ大作戦	地域住民とトレーニング施設付近の清掃活動	
三菱重工浦和レッズレディース	第3節	9月25日	浦和区女子サッカースキルアップスクール レッズランド周辺清掃活動	女子中学生向けのサッカー教室 トレーニング施設付近の清掃活動	
ノジマステラ神奈川相模原	第4節	10月2日	サッカーでインクルーシブな社会を!	地域に住む知的、発達障がい児との交流	
アルビレックス新潟レディース	第5節	10月10日	輝ける未来をともに語ろう		
			デンカビッグスワンスタジアム オータムフェスタ2021参加	子ども向けサッカー教室	
			新潟県立大潟水と森公園の20周年記念フェスティバル参加	環境保全とサッカー教室	
			「新職業女子プロサッカー選手と女性活躍応援」をテーマにトークショー	選手によるサッカーに関わるキャリアのトークショー	
大宮アルディージャ VENTUS	第6節	10月12日	新しい風(VENTUS)と共に サッカースクール「なでしこクラス」参加	少女向けサッカースクール参加	
		10月14日	さいたま市立指扇北小学校でのあいさつ運動	近郊小学校の下校時の子どもたちにあいさつ運動	
		10月15日	さいたま市北部クリーン大作戦	地域住民とホームタウンの清掃活動	
		10月17日	障がい者サッカー体験会	ブラインド、アンプティ、ロービジョンサッカー体験	
マイナビ仙台レディース	第7節	10月30日	マイナビ仙台レディースpresents Women Empowerment ふれあいデー in 利府 ～地域とともに、一人ひとりが輝く社会～	利府町女性副町長と選手のパネルディスカッション	
			トークショー ～一人ひとりが輝く社会へ～	トレーナーによるおうちトレーニング紹介	
			選手と一緒におうちトレーニング体験 サッカーふれあい体験	地域の子どもたちとサッカー交流	
サンフレッチェ広島レジーナ	第8節	11月7日	ブラインドサッカー×レジーナ ヒューマンフェスタ2021ひろしま ～こころカラフル、みらいピースフル～	ブラインドサッカーと一緒に体験	
			広島県×レジーナ女性活躍推進施策の広報活動	子育て世代の女性の就職活動サポートPR	
			グリーンバード×レジーナ 街頭清掃	地域住民とホームタウン清掃	
			マイナンバーカード出張申請サポート応援イベント	マイナンバーカード申請の疑似体験イベント	
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	第9節	11月13日	BELEZA DREAM PROJECT ～女性活躍の未来へ～	高校生による「プロサッカー選手」職業体験	
AC長野パルセイロ・レディース	第10節	11月20日	Enjoy!ポッチャ!～WE ACTION DAY～	地域住民(健常者・障がい者)とポッチャ体験	
			宮田村親子サッカー教室	地元出身選手と一緒にサッカー教室	
			諏訪市サッカー教室	地元出身選手と一緒にサッカー教室	
ちふれASエルフェン埼玉	第11節	12月5日	子どもたちの未来に夢や希望を! (みんなで遊ぼうセッション+トークセッション「今やって楽しいこと」)	児童養護施設の子どもたちと交流。一緒に夢を語る	
アルビレックス新潟レディース	第12節	2022年 3月5日	「WE」の輪を広げよう		
			2022明治安田生命J2リーグ 第3節 山口戦 試合会場でのリーグ理念周知活動 新潟県親子サッカー教室	Jリーグ会場での理念のパネル展示、選手トークショー オンラインによる親子サッカー教室	
マイナビ仙台レディース	第13節	3月13日	共生社会づくりに向けた一歩を踏み出す”学び”DAY 基調講演&パネルディスカッション	パラアスリート谷真海選手の講演と選手とのディスカッション	
			パラスポーツ体験会	ブラインドサッカー、シットティングバレー、ポッチャ体験	
AC長野パルセイロ・レディース	第14節	3月19日	Enjoy!ポッチャ!～WE ACTION DAY～	地域住民(健常者・障がい者)とポッチャ体験	
			選手から学ぶ!!プロサッカー選手とは! (佐久市限定オンライントークショー)	小学生～高校生向けに「プロサッカー選手とは」を語る	
			オンライントークショー One ACTION!	選手4人によるオンライントークショー配信	
INAC神戸レオネッサ	第15節	3月26日	INAC神戸住みよい街づくりプロジェクト(スポーツ防犯教室・サッカークリニック)	地元の子どもたちと防犯教室およびサッカー教室	
サンフレッチェ広島レジーナ	第16節	4月2日	Unified Relayスペシャルオリンピックストーリー×レジーナ	スペシャルオリンピックの聖火ランナー	
			グリーンバード×レジーナ 街頭清掃	地元住民と繁華街の清掃活動	
			健康ウォーキング×こども食堂×レジーナ こども療育×レジーナ Genius Cup参加	地元のチャリティウォーキングイベント参加。こども食堂に寄附 発達障がい児のサッカー大会で交流	
			広島経済大学 スポーツによる地域活性化プロジェクト「FLPカップ」×レジーナ	大学生企画のエンジョイサッカー大会で子どもたちと交流	
三菱重工浦和レッズレディース	第17節	4月16日	レッズレディース キッズサッカー教室	女の子向けサッカー教室	
ノジマステラ神奈川相模原	第18節	4月23日	ダイバーシティ&インクルージョンDAY サッカーでインクルーシブな社会を!	放課後デイケアサービスの子どもたちにサッカー教室	
			NFP子ども食堂によるケータリング提供	こども食堂に選手考案のランチを提供	
			心を燃やせ!スポーツ鬼ごっこ	地域の子どもたちとチームを組み、鬼ごっこ	
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	第19節	4月29日	『BELEZA DREAM PROJECT ～女性活躍の未来へ～』 駒沢女子大学 少女サッカー教室	地域のサッカースクールに通う少女たちにサッカー教室	
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	第20節	5月8日	「WE ACTION DAY ～一人ひとりが輝く社会を目指して～」		
			「ユニバーサルマッチ presented by 古河電工」への支援	知的障がいサッカーチームの試合の補助および交流	
			海を守るビーチクリーン活動 Jリーグ試合会場でのパネル展示等	ホームタウンのビーチの清掃活動 チームの活動レポート、今後の取り組みのパネル展示	
大宮アルディージャ VENTUS	第21節	5月11日	VENTUS ACTION WEEK		
			埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園選手訪問	ろう学校の選手とサッカーおよびストレッチなどで交流	
			地元メディアへの企画説明	WE ACTION DAY活動の意図や内容の説明	
			5月12日	さいたま市聴覚障害者協会による手話講習	手話を学ぶ
			5月15日	選手による手話を使ったサッカー教室	学んだ手話を使ってサッカー教室
ちふれASエルフェン埼玉	第22節	5月21日	子どもたちの未来に夢や希望を! (みんなで遊ぼうセッション+トークセッション)	近隣小学生と交流、「失敗してもいいんだよ」トークセッション	

原則 2

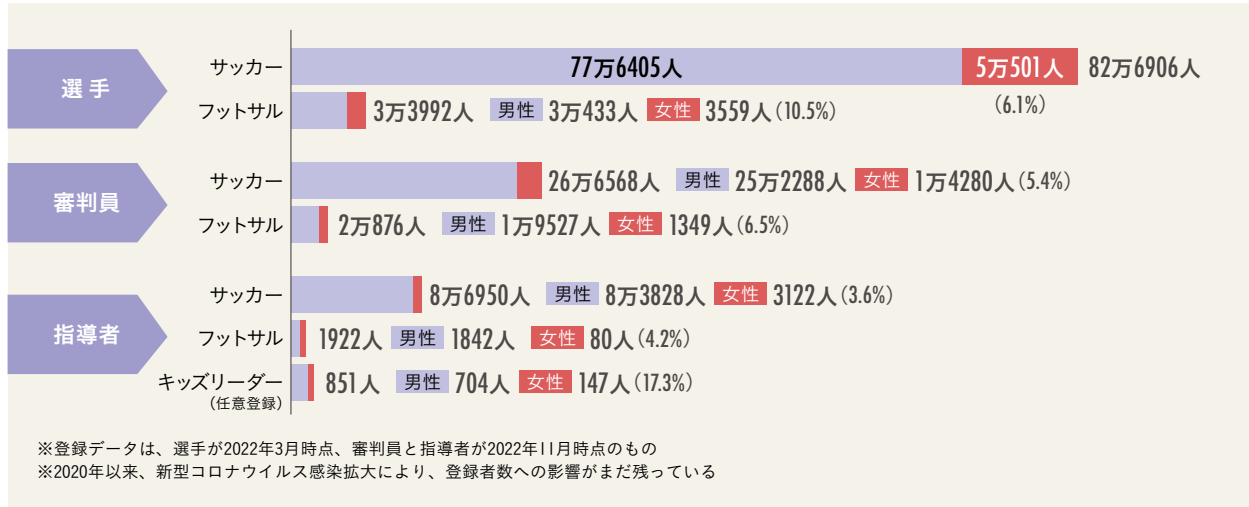


取り組み報告

機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

JFA サッカーファミリーにおける女性の人数

▶ JFA登録者数



JFAの役員・職員等における女性の人数

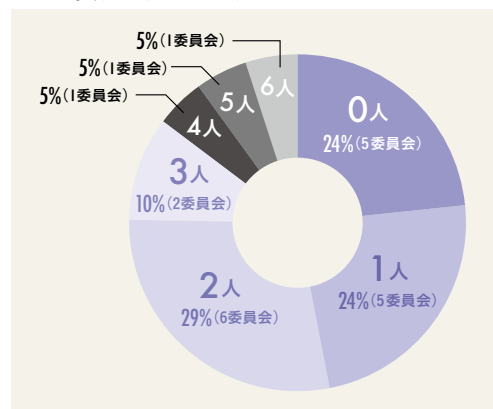
性別にかかわらず、すべての労働者に対して公平で差別のない待遇を保障すべく、JFAとWEリーグでも取り組みを行っています。JFAの役員・職員等における女性の人数や割合は以下の通りです。

※評議員以外のデータはすべて2022年11月1日時点

- 理事**
30人：男性25人、女性5人(16.7%)
※役員として副会長4人のうち、女性は1人(高田春奈副会長)。高田副会長は2021年1月の岡島喜久子副会長に続いて3人目の女性副会長
- 評議員**
79人：男性75人、女性4人(5.1%)
※2022年12月24日時点
- 各種委員会**
21委員会：女性を含む委員会16(76%)
全委員232人：男193人、女性38人(16.4%)
- 事務局員**
管理職63人：男性52人、女性11人(17.5%)
正職員208人：
男性136人、女性72人(34.6%)
臨時雇用職員42人：
男性7人、女性35人(83%)
※職員はJFAハウス、JFA夢フィールド、JFAメディカルセンターの3カ所に就業

- マッチコミッショナー**
1,545人：男性1,502人、女性43人(2.8%)
- WEリーグマッチコミッショナー**
55人：男性53人、女性2人(3.6%)
- なでしこリーグマッチコミッショナー**
88人：男性84人、女性4人(4.5%)
※WEリーグとなでしこリーグは兼務あり
- ウェルフェアオフィサー**
863人：男性822人、女性41人(4.8%)

▶ 21委員会ごとの女性の人数



WEリーグの役員・職員等における女性の人数

WEリーグの役員・職員等における女性の人数や割合は右記の通りです。WEリーグにおいては役員・職員のうち半数以上を女性が占めています。

加えて、WEリーグの2022-23シーズンにおいては、ちふれASエルフェン埼玉の田邊友恵監督とAC長野パルセイロ・レディースの田代久美子監督の2人が女性監督として指揮を執っています。

チェア	高田春奈
理事・監事	17人：男性8人、女性9人(53%)
事務局員	16人：男性4人、女性12人(75%)

※データはすべて2022年11月1日時点

WEリーグの女性登用の見える化

WEリーグは、クラブ参入基準において、女性登用を義務付けた日本初のスポーツ組織です。2019年に、スポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコードはありますが、罰則規定もなく、その実施は明らかになっていません。WEリーグの開幕前の時点で、右記の3点を明らかにすることにより、組織の多様性を見る化し、WEリーグ、そしてスポーツ組織の今後に生かします。

【参入基準(抜粋)】

- クラブの運営にあたる法人を構成する役員員の50%以上を女性とする(入会から3年以内に達成すること)
- クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも1人は女性とすること(取締役以上が望ましい)
- コーチングスタッフ(監督またはコーチ)の中に女性指導者1人以上を含むこと

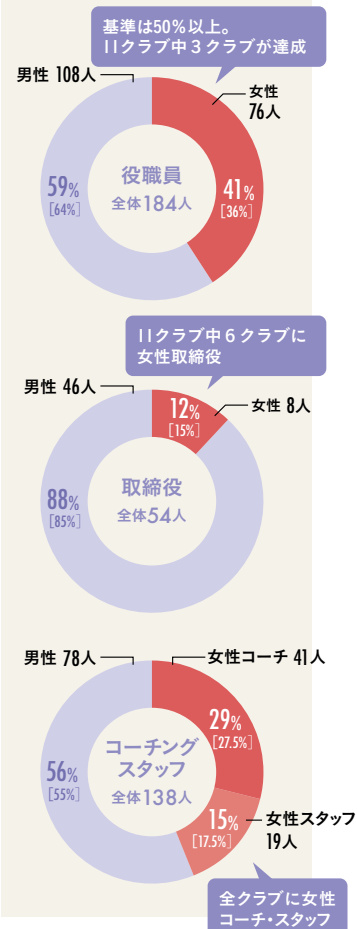
WEリーグの女性登用状況(2022年10月)

	マネジメント				競技現場					全体		
	役職員			取締役		コーチングスタッフ			女性割合	総数	女性人数	女性割合
	総数	女性人数	女性割合	総数	女性人数	総数	女性人数	うち女性コーチ				
WEリーグ	16	12	75.0%	17	9	—	—	—	—	33	21	63.6%
マイナビ仙台レディース	15	5	33.3%	3	0	16	10	6	62.5%	31	15	48.4%
三菱重工浦和レッズレディース	10	7	70.0%	2	1	13	6	3	46.2%	23	13	56.5%
大宮アルディージャVENTUS	32	12	37.5%	3	0	10	5	3	50.0%	42	17	40.5%
ちふれASエルフェン埼玉	11	6	54.5%	8	3	15	7	6	46.7%	26	13	50.0%
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	36	13	36.1%	10	1	18	11	6	61.1%	54	24	44.4%
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	21	9	42.9%	4	0	14	2	1	14.3%	35	11	31.4%
ノジマステラ神奈川相模原	10	4	40.0%	5	1	11	4	4	36.4%	21	8	38.1%
AC長野パルセイロ・レディース	22	8	36.4%	9	1	8	3	3	37.5%	30	11	36.7%
アルビレックス新潟レディース	9	4	44.4%	4	1	12	4	3	33.3%	21	8	38.1%
INAC神戸レオネッサ	9	5	55.6%	2	0	13	5	5	38.5%	22	10	45.5%
サンフレッチェ広島レジーナ	9	3	33.3%	4	0	8	3	1	37.5%	17	6	35.3%
11クラブ合計	184	76	41.3%	54	8	138	60	41	43.5%	322	136	42.2%

※女性スタッフには、指導者以外のトレーナー、主務を含む ※女性コーチとは、JFAコーチングライセンスを持っている女性指導者 ※カテゴリーを兼務している場合は、主に関わっているカテゴリー、または上位のカテゴリーで換算 ※役員数の数に、非常勤の取締役、監事および現場スタッフは含まない ※強化担当者、アカデミーダイレクターは役員員に含む

組織内における女性の割合(2022年10月)

カッコ内は2021年の数値



.WE LEADERS WE STATEMENT 2022

WEリーグの各クラブは、理念の実現に向けたクラブの指針を示す「WE STATEMENT」を発表しており、必要に応じて毎年更新しています。



マイナビ 仙台レディース

マイナビ仙台レディースは、地域における存在価値を高め、更に愛されるクラブとなるため、在仙プロスポーツチームと連携しながら、より一層仙台、宮城、東北を盛り上げる存在を目指します。



三菱重工 浦和レッズレディース

私たちは、理念実現のために、世界水準のサッカーを目指し、誰もが誇りと親しみを持つことができ、健全で持続可能なクラブを築いていきます。



大宮アルディージャ VENTUS

大宮アルディージャ VENTUS は、理念実現のために、地域とともに、新たな“風”を起こします。「新たな風」は常に新しい風を起こすことを意味します。チーム設立初年度だけでなく、地域のために、子どもたちのために、常に新しい発想を持ってチャレンジし続けます。



ちふれAS エルフェン埼玉

ちふれAS エルフェン埼玉は、理念実現のために、子ども達の未来へ、地球環境の未来へ、女子サッカーの未来へ、さまざまな可能性を未来へつなげる活動を積極的に行います。



ジェフユナイテッド 市原・千葉レディース

ジェフユナイテッド市原・千葉レディースは、理念実現のために、真摯・挑戦・つなぐ・クラブと地域・ダイバーシティ・育成・感動の7つのジェフスピリッツを実践します。



日テレ・東京 ヴェルディベレーザ

私たち日テレ・東京ヴェルディベレーザは、WEリーグ理念実現のために、ホームタウンを中心としたエリアで愛されるクラブになれるよう、地域の活性化と発展に貢献します。



ノジマステラ 神奈川相模原

ノジマステラ神奈川相模原は、WEリーグ理念実現のため、地元地域の星（チーム名由来）となり、性別や年代に関係なく、一人ひとりが輝ける社会、の実現を多様性ある神奈川から発信し、「日本一、輝く」クラブを目指します。



アルビレックス 新潟レディース

私たちアルビレックス新潟レディースは、理念実現のために、ピッチの内外を問わず活躍できる人財となり、魅力あふれる新潟づくりに貢献します。ヒト、まち、モノ、文化・伝統・芸能、食、観光、気候など“新潟という地域社会そのもの”をより一層活性させて、輝ける存在になることを約束します。



AC長野パルセイロ・ レディース

AC長野パルセイロ・レディースは、WEリーグ理念実現のために、多様性を理解し、みんなが輝けるNAGANOの未来実現のため行動します。理念推進のため、選手が中心となって地域に働きかける活動をします。チームスタッフは女性を中心に採用し、人材教育にも力を入れます



INAC神戸 レオネッサ

INAC神戸は、「For The Future」をスローガンとして、日本女子サッカーの発展のためにサッカーを通じて少女たちに夢と希望を与える存在となり、WEリーガークレドの実現を目指します。



サンフレッチェ 広島レジーナ

私たちサンフレッチェ広島レジーナは、理念実現のために男子チーム、女子チーム両方持っているクラブとして男女関係なく、お互いをRESPECTし、各々がサッカーを通じて地域の皆様と共にサッカー発展に携わる人材を増やしていきます。



WEリーグ公式 Webサイト

クラブ WE STATEMENT
[https://weleague.jp/
weaction/2/#club](https://weleague.jp/weaction/2/#club)

JFA 女性指導者について

●概要

2022年11月時点で、女性指導者は全体の3.6%です（下表参照）。

女性指導者については、女性選手の増加を追う形で進むものと考えますが、いずれにせよ大変低い数字であり、積極的な改善が必要です。

指導者養成は本来、男女関係なく行われるものであり、女性をことさらにとり出して取り組むことには議論がありました。しかし、長年にわたり自然にやってきた結果

▶指導者登録数

サッカー	全登録(人)	女性(人)	女性比率
S級	493	8	1.6%
A級 ジュネラル	1,963	67	3.4%
A級U-15	160	2	1.3%
A級U-12	382	5	1.3%
B級	7,155	256	3.6%
C級	28,579	1,402	4.9%
D級	47,367	1,235	2.6%
キッズリーダー	851	147	17.3%
合計	86,950	3,122	3.6%

(参考) 前年合計 85,227 2,882 3.4%

サッカー(GK)	全登録(人)	女性(人)	女性比率
GKレベル3	194	1	0.5%
GKレベル2	365	8	2.2%
GKレベル1	2,204	59	2.7%
合計	2,763	68	2.5%

(参考) 前年合計 2,392 57 2.4%

フットサル	全登録(人)	女性(人)	女性比率
フットサル A級	45	1	2.2%
フットサル B級	171	4	2.3%
フットサル C級	1,706	75	4.4%
合計	1,922	80	4.2%

(参考) 前年合計 1,776 72 4.1%

サッカー・フットサル合計	88,872	3,202	3.6%
---------------------	---------------	--------------	-------------

(参考) 前年合計 87,003 2,954 3.4%

が、今の状態であることを考えると、一定期間は特別な対応をして変化の土台をつくる必要があります。

女性指導者が少ない理由の一つとして、ロールモデル不足が挙げられます。女子の選手たちは、子どもの頃からの選手経験の中で女性に指導される経験が少なく、そのために指導を行うイメージを持っていないことが多いです。また、数が少なすぎることで際立ってしまい、個々の特長は異なるのに一般化されがちでもあります。

女子サッカーの普及を進める上でも、女性指導者の存在は重要であると考えます。特に低年齢では、女子だけのチームももちろんありますが、男子に混ざってプレーをする機会が多くあります。その多くは、大勢の男子の中に少しの女子が混ざって頑張る状況です。

そのようなときに、指導スタッフに女性がいれば、子どもたちにとっては非常に心強く、参加のハードルが下がります。また、保護者の皆さんにとっても安心だと思います。特に遠征や宿泊を伴う活動ではなおさらです。キッズやU-12年代の活動現場には、女性指導者がいる状態をつくり、普及を進めていきたいと考えています。女性指導者を増やすこと、現場への配置を進めることに合わせて取り組んでいます。

●A-Pro ライセンス

JFA 技術委員会との連携で「女子サッカー振興プロジェクト」の一環として、女性指導者を対象に、AFC-Pro基準の新たなライセンスとして「Associate-Pro (A-Pro) ライセンス」を2020年より時限的に開設しました。保有者はWEリーグでの指揮が可能です。

2020/2021年度のコースは、コロナ禍による予定変更もありましたが、2021年5月にモジュール5（最終試験）が終了し、2022年6月には海外研修としてイングランドで開催されたUEFA女子EURO 2020の視察を実施しました。国内研修（インターン）を経て、コース修了です。

【目的】

WEリーグ所属のチーム及びWEリーグ所属のプロ選手の指導ができる人材を養成すると同時に、世界のサッカー界における女性指導者のリーダーとなる人材を育成する。

▼これまで

女子サッカーの歴史が浅い分、高いポテンシャルを有しながらも経験値が足りず、現行のS級コーチ養成講習会の枠に入りづらい

→磨かれていない原石

- ▶ 「日本人女性指導者のレベル（少なくともそのポテンシャル）は低い」
- ▶ 「S級受講の間にポテンシャルを引き出せるインストラクター陣がいる」

▼これから

ポテンシャルが高く、将来のリーダーになり得る女性指導者のためのスペシャルコースで突破口を開く

→磨かれていない原石を磨く

【位置付け】

- AFC-Pro 基準の新たなライセンス（時限措置）
- WEリーグの指揮は可能
- Jリーグで指揮するためにはS級コーチライセンス取得が必要

▶ A-Proライセンス開設の目的

日本女子サッカーの継続的な発展に向けて

1. 女子/女性のサッカー競技人口の増加

- プレー機会減少によるサッカー離れを生み出さないため、女子委員会が行う普及施策を“ALL JFA”として取り組む
- 女子/女性が継続的にサッカーを楽しむことができる環境を整備し、サッカーを長く楽しみ、応援してくれる女子/女性を増やす



2. 次世代を引っ張るリーダーの育成

- WEリーグ立ち上げで監督になり得るだけでなく、後進指導者たちを育て導いていくロールモデルの育成
- インターナショナルな分野でも活躍できる人材の育成

新たな施策に着手

女性指導者育成の突破口としてS級に準ずるライセンス「Associate-Pro(A-Pro)ライセンス」を“時限的”に創出

女子サッカーのみならず、日本サッカー全体の継続的な発展へ

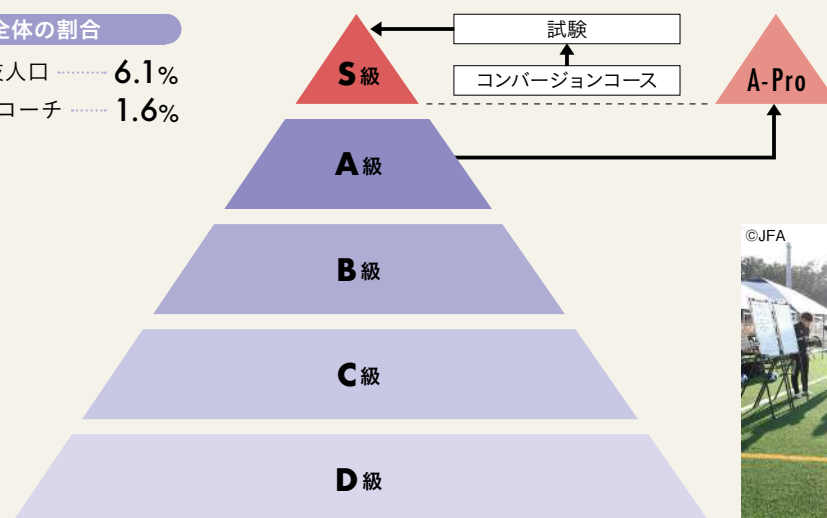
▶ A-Proライセンスの位置付け

JFA公認指導者ライセンス

全体の割合

女性競技人口 6.1%

女性S級コーチ 1.6%



WEリーグでの指揮が可能になるA-Proライセンスを2020年に開設



A-Pro ライセンス取得後に経験を積み、JFA が主催する S 級コンバージョンコースを受講し、すべてに合格すると JFA S 級ライセンスの認定を受ける。

【受講資格】 ※2020 年度の場合

1年以上の指導経験があり、次の事項のいずれかを満たしている指導者。

※ユースレベル以上の指導チームがあることが望ましい

- ①有効な JFA A 級コーチジェネラルライセンス保有者
- ②有効な UEFA-A 級、AFC-A に相当するライセンス保有者
- ③2019年度 A 級コーチジェネラル養成講習会の受講者のうち、総合成績が S ランクかつ国際 A マッチ20試合以上、なでしこリーグ公式戦200試合以上の出場経験を有する者

▶ **講習会内容／開催日程**

事前研修 スキルアップ研修

- ✓ **モジュール①集合講習**
指導実践及びメンタリング①・②
- ✓ **モジュール②集合講習**
指導実践及びメンタリング③・④
- ✓ **モジュール③集合講習**
指導実践及びメンタリング⑤
- ✓ **モジュール④集合講習**
指導実践及びメンタリング⑥
- ✓ **モジュール⑤集合講習(試験)**

通期 オンライン講習 17回

通期 語学研修 (25分×週4日)

※海外研修、国内研修(インターン)を経て修了



©JFA
A-Proライセンスの研修にはメンタリングや語学研修も含む

【コースのコンセプト】

- リアリティーをベースとした学習
→実戦に基づく指導体系
- 課題解決型学習
→1 on 1 メンタリングによる指導力の向上
→受講者1人に1人のメンターがつき、成長をサポートする
- CPD (Continuous Professional Development)
→コース終了後の再教育機会創出
- 国際的な感覚／コミュニケーション能力
→オンライン1 on 1語学研修 (週4回以上)
- 海外研修
→UEFA 女子 EURO 視察
- 国内研修
→各自



JFA 公式 Web サイト

参照：https://www.jfa.jp/women/associate_pro/

● **女性の受講促進のために女性コースの設定**

女性指導者がより指導者養成コースを受講しやすいように、女性を対象としたライセンスコースの設定を行っています (2022年度の実施状況は次ページの表参照)。

女性だけで指導者養成コースを行うことに対して、当初はレベルの低下や経験不足の懸念がありましたが、実際に情熱を持って受講し、吸収し成長する受講者に触れるにつけ、その先入観は一掃されています。男子と一緒に受講するメリットももちろんあり、それは選択肢として残しておきつつ、機会を増やすこと、受講しやすさを高めることに取り組んでいます。各都道府県でも、女性コースの設定や、受講を促す声掛け、現場への導入など、さまざまな取り組みをさせていただいています。

- **振興プロジェクト**：JFA 技術委員会と連携して2020年から実施
- **女性を対象にした指導者養成コース**
A-Pro ライセンス：2020年から実施
A 級ライセンス：2021年から実施
B 級ライセンス：2018年から実施
C 級ライセンス：2017年から実施
※ JFA、47FA、WE クラブ、女子学連

D級ライセンス：2017年から実施

※なでしこリーグ新人研修、JFA、47FA、女子学連

● WE リーグ C 級ライセンス研修

女性指導者養成およびサッカー理解を深めるために、WE リーグのプロ契約選手はC級コーチライセンスの取得が求められています。クラブごとに講習会が開催され、2021年度は9クラブ152人のWEリーガーがC級ライセンスを取得しました。

● 上位ライセンスに向けたスキルアップ研修

上位ライセンスへのチャレンジを促すべく、2016年から女性指導者スキルアップ研修会を実施しています。

特に上位ライセンスにチャレンジするためのトライアル指導実践に自信を持って臨めることを目指し、指導実践を中心に研修しています。

● 女性インストラクターの追加2枠の設定

C級・D級の女性インストラクターは、2019年以前で550人中8人(1.5%)しかいませんでした。女性指導者の養成を積極的に進める人材として、47FAのインストラクターに、各2枠の女性インストラクター枠を設定

しました。2022年10月現在、C級・D級の女性インストラクターは607人中37人(6.1%)となっています。

今後の女性インストラクター数の目標は100人です。女性インストラクターが今後経験を積み、上位ライセンスのインストラクターになることも期待されます。指導者養成の重要なパートを占める人材となってもらうための準備です。

● 今後に向けて

指導者となるイメージがまだ薄いため、指導者養成コースを積極的に設定してもなかなか受講者が集まりにくく、「ニーズがないのでは」と言われることもあります。しかし、現在活躍している女性指導者の多くは、恩師や周囲の指導者に声を掛けられ、励まされ、背中を押されて取り組み始めたケースです。ぜひ指導者の皆様のご協力をお願いしたいです。

また、今後の課題として、ライセンスの失効・退会を減らしていくことも大きなテーマです。失効・退会が多いことは女性に限ったことではありませんが、ぜひ指導を長く続けてもらえるように、出産・育児などで一時的に離れてもまた再開してもらえるように、制度などを検討していきます。

▶ 全日本大学女子サッカー連盟 (2022年登録状況)

チーム数	87 チーム
登録者数	2,201 人
監督内訳	男性： 68 人 女性： 17 人 (監督不在2チーム)

※2022年10月31日時点

WEリーグの選手向けのC級コーチ養成講習会

©WEリーグ



▶ 女子学連・ C級取得者数

年	人数
2005	13
2006	15
2007	31
2008	40
2009	28
2010	30
2011	24
2012	23
2013	28
2014	45
2015	31
2016	34
2017	35
2018	25
2019	10
合計	412

▶ 2022年度 女性対象ライセンスコース一覧

コース	主催	備考
A級	JFA	
B級	JFA	
C級	沖縄県 FA	
	群馬県 FA	
	JFA	2コース開催
	JFA/WEリーグ	9コース開催
D級	沖縄県 FA	新型コロナウイルス感染拡大により中止
	秋田県 FA	
	群馬県 FA	
	岡山県 FA	
	群馬県 FA	
キッズ	茨城県 FA	
	京都府 FA	新型コロナウイルス感染拡大により中止
	東京都 FA	

指導者ライセンスの上位ライセンスを取得したり、JFA 公認指導者の海外派遣を活用したりして、各国の代表チームを率いるなど国際的に活躍する女性指導者もいます。

岡本三代 (S級)

※カッコ内は取得ライセンス

2021年～ タイ女子代表・U-20女子代表監督

轟奈都子 (A級、GKレベル3)

2021年～ タイ女子代表・U-20女子代表 GK コーチ

河本菜穂子 (A級)

2014～2017年 モルディブ女子代表監督

2019年～ U-16・U-19モンゴル女子代表監督

本田美登里 (S級)

2022年～ ウズベキスタン女子代表監督



タイ女子代表とU-20タイ女子代表を率いる岡本三代さん(左から3番目)と、同GKコーチの轟奈都子さん(左から2番目) 写真提供:タイサッカー協会



江口なおみさん(中央前)はタイ女子代表・U-20タイ女子代表のフィットネスコーチとして指導にあっている

深野悦子 (審判指導員)

2022年5月29日～6月12日/フランス

第48回モーリスレボロトーナメント

2022年8月15日～21日/タイ

AFC 女子クラブ選手権2022

2022年10月11日～30日/インド

FIFA U-17女子ワールドカップインド2022

山岸佐知子 (審判指導員)

2022年1月20日～2月6日/インド

AFC 女子アジアカップインド2022

5月29日～6月12日/フランス

第48回モーリスレボロトーナメント

2022年9月14日～18日/インドネシア

AFC U20アジアカップウズベキスタン2023予選 グループF

2022年10月11日～30日/インド

FIFA U-17女子ワールドカップインド2022



モンゴルのアンダーカテゴリー女子代表監督を務める河本菜穂子さん(中央)



本田美登里さん(一番右)はウズベキスタン女子代表監督として活躍中

WE リーグでは、審判員やスタッフ、また意思決定者の女性登用を推進するだけでなく、試合に関するあらゆる場所での女性の配置を推進しています。実況や解説、中継のディレクター、カメラマンなど、これまで女性があまり関わることの少なかったポジションで、女性が活躍しています。



JFA 女性審判員について

● 審判員登録数

2022年11月1日時点で、女性審判員登録数は下表の通りです。

▶ 審判員登録数

	登録(人)	女性(人)
サッカー審判員	266,568	14,280
フットサル審判員	20,876	1,349
サッカー審判インストラクター	2,853	125
フットサル審判インストラクター	584	27
合計	290,881	15,781

※女性の割合は5.4%

● 女性審判員の養成

〈 審判女子トレセン 〉

女子審判員の普及・育成を目的とする、各都道府県で開催する審判女子トレセンにおいて、JFAとして一部費用の補助や、JFA審判インストラクターを派遣する仕組みを設けています。

その際、特に普及の場合は女性インストラクターの派遣を希望する場合が多く、可能な限りそれに応じています。男性インストラクターが多い中で、女性を派遣することで、自分でもできると感じてもらえる存在として好評です。

〈 地域や都道府県で開催される研修会 〉

男性インストラクターと女性インストラクターが、お互いに協力しながら研修会を運営することを推奨しています。審判の技術的な指導のみならず、特に女性審判員が多く参加する研修会では、女性インストラクターは身近なロールモデルとして、現場にいて参加者の安心感につながります。

● 活躍する女性審判員

WEリーグを担当する審判員は、国内トップの女子審判員です。なでしこリーグの主審を担当する審判員も、同じく国内トップの女子審判員になります。

サッカー国際審判員(女子)は主審4人、副審4人が登録されています。そのうち、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)に主審として山下良美、副審として

坊菌真琴、手代木直美が選出されました。また、フットサル国際審判員(女子)は3人登録されています。

2022シーズンは、J1リーグにて女性で初の主審(山下良美)、J2リーグにて女性で初の副審(坊菌真琴、手代木直美)が誕生しました。なお、国際大会で男子の試合の審判員も担当しています。

【 男子国際大会での担当審判員 】

2022年4月15日～30日/タイ
AFCチャンピオンズリーグ2022
グループステージ グループG
主審：山下良美
副審：坊菌真琴、手代木直美

2022年5月29日～6月12日/フランス
第48回モリスレベロトーナメント
主審：山下良美
副審：坊菌真琴、手代木直美

また、長い歴史を持つFIFAワールドカップでは、2022年11月20日～12月18日に開催されたカタール大会にて、初めて6人(主審3人、副審3人)の女性審判員が選出されました。アジアからは日本の山下良美さんも選出され、第4の審判員を6試合担当しました。

©2022 FIFA



FIFAワールドカップカタール2022の審判員に選出された山下良美さん(右から2番目)

原則 3



取り組み報告

健康、安全、暴力の撤廃

JFA | .WE LEAGUE ウェルフェアオフィサー制度

女子サッカーに関わる各リーグ・連盟にてリスペクト、セーフガーディングに対してより積極的に取り組むべく、プロジェクトを組んで検討を行っています。

2021年の JFA コーチ女子担当研修会で、ウェルフェアオフィサー(ジェネラル) 養成講習会を全員が受講し、認定されました。WE リーグ11クラブと WE リーグの理念推進担当もウェルフェアオフィサー研修会を受講しま

した。それに続き2022年は、なでしこリーグの各クラブがウェルフェアオフィサー研修会を受講しました。女子に関わるリーグとして、今後有効に機能させるべく、連携して取り組んでいきます。



JFA公式 Web サイト

参照： <https://www.jfa.jp/respect/>

JFA | .WE LEAGUE ピンクリボン運動への取り組み

JFA は、WE リーグ、なでしこリーグと共に、乳がんの啓発活動である「ピンクリボン運動」に賛同し、「ピンクリボン月間」となる10月に行われた各種事業において同活動の啓発に取り組みました。また、10月19日(ピンクの日)には、JFA のバナーや SNS のアイコンをピンクにし、情報発信を強化しました。

[試合会場での乳がん検診車の配置と無料検診の実施]

- 2022-23 WE リーグカップ決勝 (10月1日)

[投げ銭サービス「KASSAI」を活用したクラウドファンディングの実施]

公開期間：10月1日～30日

応援金使途：乳がん支援活動を行う日本対がん協会へ寄付
返礼品：サッカー日本代表をはじめとする期間中の JFA 事業にまつわるグッズ

[試合会場におけるピンクリボンブースの展出 またはピンクリボンバナーの掲出]

- なでしこジャパン：国際親善試合 (10月6日)、MS&AD カップ2022 (10月9日)
- 天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会決勝 (10月16日)
- 2022-23 WE リーグカップ決勝 (10月1日)
- 2022-23 Yogiibo WE リーグ 第1節・2節 (10月22日～30日) ※一部の試合を除く。バナー掲出のみ



©WEリーグ

- 2022プレナス なでしこリーグ1部 第21節・22節（10月10日～16日） ※一部の試合のみ
- 2022プレナス なでしこリーグ2部 第18節（10月9日） ※一部の試合のみ

[ピンクリボン勉強会]

- ピンクリボンフェスティバル（日本対がん協会ほか主催）の協力の下、なでしこジャパンスタッフに向けた乳がん勉強会を実施

[ウォームアップウェア・アンセムウェアをピンクに統一]

- なでしこジャパン：国際親善試合（10月6日）、MS&ADカップ2022（10月9日）

[ピンク色のマスクを着用(スタッフ、大会関係者)]

- JFA メディカルセンタースタッフ

- なでしこジャパン：国際親善試合（10月6日）、MS&ADカップ2022（10月9日）
- 天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会決勝（10月16日）

[ピンクリボンバッジを着用]

- なでしこジャパンメンバー発表会見（9月29日）
- なでしこジャパン：国際親善試合（10月6日）、MS&ADカップ2022（10月9日）

[各カテゴリーの日本代表選手からの ピンクリボン賛同コメント動画を発信]



JFA 公式 Web サイト

参照：https://www.jfa.jp/social_action_programme/pinkribbon2022/

JFA 女性審判員の産前・産後サポート

● 出産・育児を経た復帰

休止を除く50人の女子1級審判員のうち、女子1級になってから出産を経て復帰した審判員は4人います。以前は、出産した後の活動継続が難しいのではないかと考えられていましたが、復帰を果たし活動している審判員を見て、これから出産を考えている審判員の選択肢が広がりました。

宿泊を伴う研修会では、お子さんを連れて参加するケースや、試合会場へお子さんを連れて行くケースもあります。より活動しやすい環境整備のために、関係する機関やリーグと共に、今後はさらに踏み込んだサポートを実現していくことが課題です。

● 産休制度

出産に伴う産休制度が以前はありましたが、今は休止制度の中に含まれるようになりました。理由は、実際には1年間の産休の範囲で収まるケースは少なく、複数年にわたって活動を休止する必要があるため、現行の休止制度に含めた方がより柔軟性が持てるからです。

● 復帰に向けてのサポート

審判員は通常、国内女子のトップリーグを担当します。

そのリーグを担当するためには、フィットネステストに合格する必要があります。出産から復帰をする審判員も同様の条件になります。ただし、産後復帰を目指す審判員のほとんどが苦勞しているため、下記のサポート制度をつくりました。なお、オンライン会議システムの普及もあり、指導内容によってはオンラインでの対応も可能としています。

〈 サポート条件 〉

- 休止をしている場合、休止解除をしてからサポートが受けられる
- サポートが利用できる期間は、最初のサポート利用時から1年間まで
- サポートが利用できる回数は全部で3回のイメージ
- ①トレーニングスタート時、②途中経過、③テスト前
- トレーニングサポートは、専門性が必要な観点から専門知識のある審判担当のフィジカルマネージャーの協力を仰ぐが、JFAの審判委員会が認めた地域にいるフィットネスコーチの協力も得る場合もある（子どもを連れての長距離移動をせずともサポートを受けられるようにするため）
- サポートに関わる指導者の経費はJFAが負担



出産を経てピッチに復帰した、「ママWEリーガー」としてプレーする日テレ・東京ヴェルディベレーザの岩清水梓選手

©WEリーグ



写真提供: JISS

国立スポーツ科学センター(JISS)で実施している妊娠期・産後期のサポート



ジェフユナイテッド市原・千葉レディースの大滝麻未選手が出産後3カ月半で試合に復帰。我が子と共に入場

©WEリーグ

JFA | .WE LEAGUE 現役選手の産前・産後サポート

JFAの指導の下、所属チームと地域の専門家（チームドクター、トレーナー、近隣大学等）に対し、国立スポーツ科学センター(JISS)スタッフにより、妊娠期・産後期のサポートの仕方と包括的な支援体制の伝達を受けました。伝達を受けた所属チームと地域の専門家で、妊娠・出産を経た対象選手の活動拠点において、競技復帰への支援を実施しました。

- **支援体制整備**：所属チーム、JFA、JISSのスタッフと、選手の抱える課題に合わせ、重点的にサポートを実施する分野や支援体制等を検討しました。
- **メディカルチェック**：医療従事者であるスポーツドクター（内科、整形外科、婦人科）の診療や、理学療法士による対象選手の機能評価を実施しました。
- **トレーニングサポート**：妊娠経過や出産状況に合わせたトレーニングをサポートしました。分娩による身体

へのダメージを抑えて良い出産をすること、妊娠による筋機能低下の抑制、競技復帰に向けた体力の向上、産後特有の身体的課題の改善等を目標としました。特に強調され重要視されている産直後には心身の評価を行い、トレーニングプログラムを実施しました。

- **栄養サポート**：妊娠期・授乳期の栄養・食事管理、ウエイトコントロールや産後の競技復帰に向けた食環境整備、競技復帰に向けた体づくりについての栄養相談を実施しました。また、子どもへの授乳や離乳を含めた栄養管理に関するアドバイスを行いました。
- **心理サポート**：対象選手の心身状態の把握、競技復帰において対象選手が抱える課題の明確化を目的に、心理検査を実施しました。選手が自身の状態を認識することにより、支援の必要性を受容し、適切な支援（早期介入やカウンセリング等）を行うことができます。



教育と研修

JFA | WE LEAGUE

JFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラム

● 第3期を開催

JFAとWEリーグは、2020年に「サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員・経営層の育成」を目的に、JFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラムを開設しました。近年、世界のサッカー界においても「Women in Football」はホットトピックであり、国際サッカー連盟（FIFA）だけでなく各大陸・各国連盟がさまざまな取り組みを行っています。日本サッカー界のオフ・ザ・ピッチでも、女性役員・意思決定層の人材は不足しており、今こそ戦略的に育成を強化していく必要があります。

また、WEリーグは設立の意義の一つに「日本の女性活躍社会を牽引する」を掲げました。この意義を体現し、「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」というWEリーグの理念を実現するため、JFAとWEリーグは共同で女性役員・経営層の育成に取り組んでいます。

2022年10月には第3期を修了し、これまで36人の修了生を輩出しました。開設当初から掲げている本プログラムの柱は、「女性とジェンダー理解」「マインド変革」「経営リテラシーの獲得」の3点です。さまざまな領域で活躍される講師をお招きし、これまで女性が社会の中で置かれてきた立場や役割の歴史をひも解きながら、その結果、女性が抱えやすいと言われている心理的な障壁や内面的な特徴に自ら向き合い、それを乗り越えていく方法を仲間と共に学びます。そして、経営層として必要な実務スキルに加え、サッカーやスポーツの価値を今一度みんなで考え、最終課題の発表につなげています。

受講者の所属は、47都道府県サッカー協会、WEリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Jリーグクラブ、リーグや連盟など多岐にわたり、男子サッカー、女子サッカー、フットサル、障がい者サッカーなど競技の垣根を超えたメンバーが共に学んでいるのも、本プログラムの

大きな特徴です。ここで得たネットワークをそれぞれの業務・事業に生かし、新しい日本サッカーの未来を生み出すことを期待しています。

意思決定層に、女性を含めたさまざまな背景を持った人が参画することは、日本サッカーの成長にとって欠かせません。JFAとWEリーグは引き続き、女性リーダーの育成に取り組んでいきます。



JFA公式Webサイト

参照：https://www.jfa.jp/social_action_programme/womens_empowerment/

● 全体概要

[目的]

サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員 / 経営人材を育成する。

[主催]

JFA、WEリーグ

[受講資格]

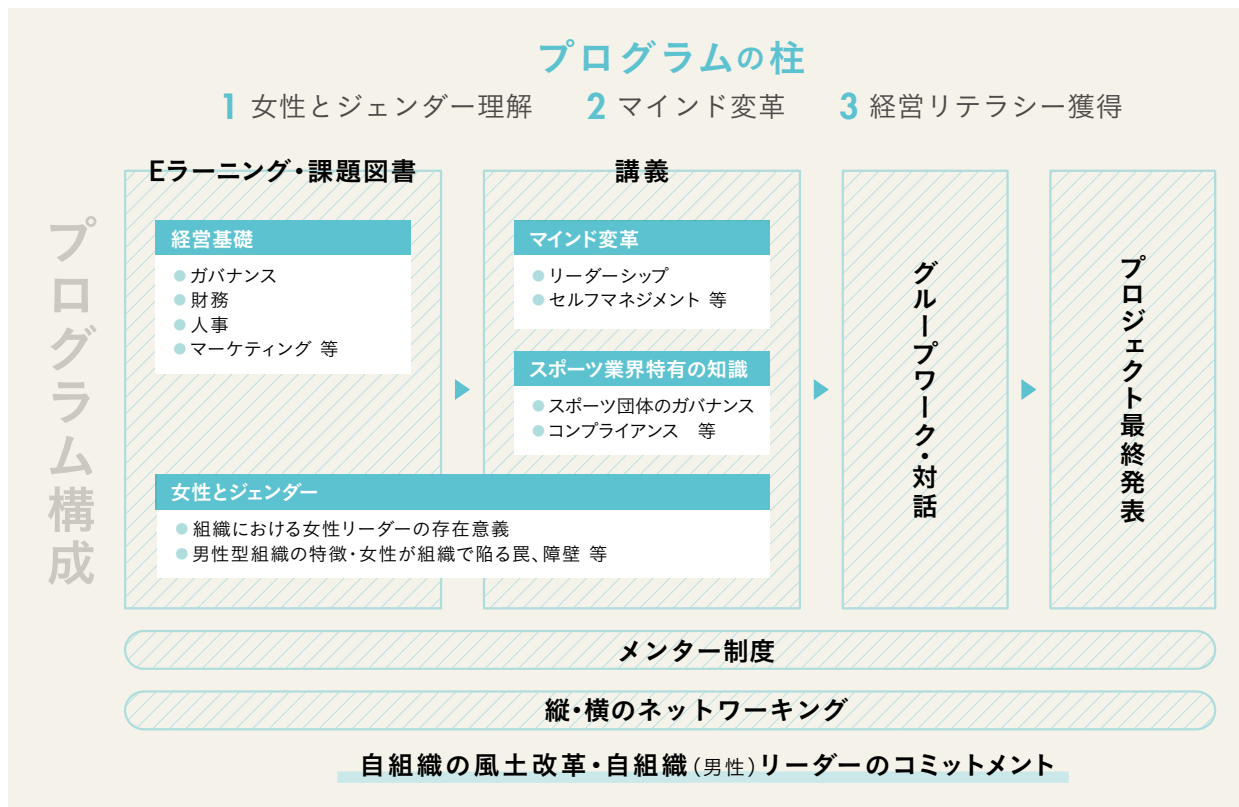
次の事項のいずれかを満たし、今後組織での経営人材を志す女性。

- 9地域 / 47都道府県サッカー協会において、副会長以上の役職に就く者、またその候補者
- WEリーグ参入予定クラブの経営人材候補者
- その他、サッカー・スポーツ関連団体における経営人材候補者

[研修内容]

- 1カ月ごとに週末の集合研修として、4回のモジュールを実施
- 間の学習
- アウトプット：個人課題・グループ課題の発表
- シンポジウム
- プログラム終了後のフォローアップ

▶プログラム内容



▶女性リーダーシッププログラム受講者

	氏名	所属先	役職
1期生	穴吹侑子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	係長
	江川純子	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	事務局長
	小野寺志保	大和シルフィード	トップチームGKコーチ
	加藤久美子	AC長野パルセイロ・レディース	取締役
	小林美由紀	公益社団法人日本サッカー協会	女子委員
		ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	マネージャー
	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	理事	
	巽由香利	一般財団法人日本フットサル連盟	理事
	手塚貴子	公益財団法人日本サッカー協会	理事/女子副委員長
	初矢千秋	伊賀FCくノ一三重	事務局長
	宮崎美由紀	一般社団法人佐賀県サッカー協会	副会長
	山本亜里奈	アルビレックス新潟レディース	トップチーム兼 アカデミー担当マネージャー
鷲津裕美	公益財団法人北海道サッカー協会	副会長	
渡辺典子	公益財団法人埼玉県サッカー協会	副会長	
2期生	井上有希江	公益財団法人愛知県サッカー協会	理事/女子委員長
	漆間亜美香	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	管理部部長
	江崎亜希子	一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟	事務局
	片貝仁子	公益社団法人富山県サッカー協会	副会長
	岸田直美	一般社団法人兵庫県サッカー協会	副会長
	ASハリマアルビオン	代表取締役社長	
	北本綾子	オルカ鴨川FC	GM
	小室瑞紀	ノジマステラ神奈川相模原	広報・WEリーグ理念推進担当
	撰朋恵	サンフレッチェ広島レジーナ	強化担当
	田中麗美	横浜FCニッパツシーガルズ	パートナーセールスグループ次長
	橋本紀代子	大和シルフィード	フロント
	三上尚子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	GM
柳田美幸	三菱重工浦和レッズレディース		

	氏名	所属先	役職
3期生	大岩真由美	公益財団法人北海道サッカー協会	理事
	神一世子	一般社団法人神奈川県サッカー協会	理事
	井手祥子	公益財団法人広島県サッカー協会	
	山岸佐知子	公益財団法人日本サッカー協会	理事
	高橋薫	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	次長
	近藤絵梨佳	サンフレッチェ広島レジーナ	
	船越裕美	湘南ベルマーレ	部長
	清水万理	一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ	
	伊藤由佳	セレッソ大阪	主任
	小亀多佳	公益社団法人日本プロサッカーリーグ	部長
風間理佐	一般社団法人日本女子サッカーリーグ		
安奈希沙	一般社団法人フットサルクラブSAICOLO (さいたまSAICOLO)	理事	

女性リーダーシッププログラムの3期生



※50音順/所属先・役職は申込時のもの

▶ 講習内容一覧

	講習内容	講師名	所属・役職	モジュール	日時
第3期	講義① 「世界的女子サッカー」	今井純子	JFA理事	第1	2022年 6月4日
	基調講演① 「女性とリーダーシップ」	山口香	筑波大学教授		
	講義② 「ジェンダーを理解する」(前半)	山口理恵子	城西大学教授		6月5日
	講義③ 「ジェンダーを理解する」(後半)	山口理恵子	城西大学教授	第2	7月9日
	講義④ 「アサーティブコミュニケーション」	小柳茂子	相模女子大学教授		
	講義⑤ 「メディアトレーニング」	三須亜希子	フリーアナウンサー	第2	7月10日
	講義⑥ 「リスクマネジメント・ケーススタディ」	大江修子	TMI総合法律事務所		
	講義⑦ 「クラブ運営」	久保田淳	株式会社エンパブリック	第3	8月6日
	講義⑧ 「ハラスメント」	小林美由紀 山口理恵子	WEリーグ理事 城西大学教授		
	講義⑨ 「麒麟社のCSV経営(経済的価値と社会的価値の創造)と日本サッカー協会について」	藤川宏	麒麟ホールディングス株式会社 執行役員 CSV戦略部長		
	講義⑩ 「リーダーシップ論」	小林いずみ	みずほフィナンシャルグループ 社外取締役・ANAホールディングス 社外取締役 等	第3	8月7日
	講義⑪ 「WEリーグの理念推進活動」	小林美由紀	WEリーグ理事		
	基調講演② 「リーダーシップ」	佐伯夕利子	JFA女子委員	第4	10月1日
	個人発表	—	—		
グループ発表・シンポジウム	詳細は30ページに記載		10月2日		

※所属・役職は講習実施時のもの



●女性リーダーシップシンポジウム

第4モジュールの修了式の前に受講者たちは、プログラムの一環として女性リーダーシップシンポジウムに参加しました。このシンポジウムにおいてはサッカー界以外からのゲストも招き、多様な視点から女性活躍やリーダーシップ、女子サッカーの意義やWEリーグの価値などについて語り合いました。

第4期（2022年10月2日開催）

パネルディスカッションテーマ：

「女性スポーツの未来を考える～今、何が必要か～」

[パネリスト]

萩原美樹子（Wリーグ・バスケットボール女子日本リーグ東京
羽田ヴィッキーズHC）

山田博子（一般財団法人全日本野球協会理事）

小林美由紀（WEリーグ理事）

山口隆文（JFA アカデミー福島女子統括ダイレクター）

[ファシリテーター]

山口理恵子（城西大学教授）

JFA | WE LEAGUE WEリーガー「FOOTBALLを学ぼう！」セミナー

WEリーグは、世界一を目指すリーグとして、高い理念を掲げています。社会面とともに、プロリーグでプレーする選手自身が、よりFOOTBALLを深く知り、自身のパフォーマンス向上に生かしてもらうべく、JFA技術委員会の協力のもと、「FOOTBALLを学ぼう！」セミナーを開催しています。2021-22シーズンは下表の通り、全10回開催しました。



▶ 2021-22 WEリーガー「FOOTBALLを学ぼう！」セミナー

回	日程	講師	タイトル
1	9月27日	小野剛	世界のサッカー～WEリーグを世界一のリーグへ～
2	10月11日	小野剛	エモーションを味方につける
3	10月25日	寺口謙介	テクニカル分析のサッカーへの応用
4	11月8日	山岸佐知子・小野剛	レフェリーから見るフットボール
5	11月22日	川俣則幸	GKから見るフットボール～11人でゲームをつくる～
6	12月6日	菅野淳	フィジカルフィットネス～プロ選手として知っておくべきこと～
7	3月28日	小野剛	世界のサッカー最前線～世界一のリーグを目指して～
8	4月11日	影山雅永	ここが変だよ日本人
9	4月25日	川俣則幸	「ゴールキーパー」から「ゴールプレーヤー」へ
10	5月12日	小粥智浩	オフシーズンのトレーニング

.WE LEAGUE WEリーガー研修

2022年7月13日～15日に「2022-23 WE リーガー研修」をオンラインにて開催しました。

2シーズン目となる今回は、「EMPOWER YOURSELF 自分の『POWER =よいところ』を見つけ、表現しよう」をテーマに、1日目の新人研修には42人、2日間の全員研修には184人が参加しました。特に、「プロとは」の講義では中田浩二さん、鈴木啓太さんを迎え、立候補した選手たちが自らファシリテーターを務めました。たくさんの質問が飛び交い、活発なセッションとなりました。



WE リーグ公式 YouTube チャンネル

WE リーガー研修2022 「自分の力を見つけ、表現しよう！」

参照： <https://youtu.be/rw54g8DZNnk>

▶ WEリーガー研修スケジュール

	新人プロ選手	プロ選手全員	
	7月13日	14日	15日
研修①	イントロダクション 「WEリーグの理念」 「女子プロサッカー選手とは」 講師 小林美由紀・東明有美	イントロダクション 「2021-22シーズンのWEリーグ振り返り」 「グループディスカッション」 講師 小林美由紀・東明有美	プロとは(元プロサッカー選手に聞く!) 「WEリーガーに伝えたいこと」 「選手からの質問・ディスカッション」 講師 中田浩二・鈴木啓太
研修②	プロとしての振る舞い 「スポーツマンシップ」 「高潔性インテグリティ」 「メディア」 講師 伊藤華英	ジェンダー・性の多様性 「ジェンダー・ダイバーシティとは」 「LGBTQについて」 講師 野口亜弥	自分の言葉で発信する 「プロ選手としての発信」 「メディアを味方にしよう」 「自分を表現する」 講師 三須亜希子
研修③	プロ「個人事業主」とは 「プロとして収入を得るということ」 「お金、税金などの知識を身に付ける」 講師 多田雅之	海外から見たWEリーグ 「スペインの成功例」 「選手としての自覚」 講師 佐伯夕利子	自分の身体を知る(スポーツ医学) 「女性の身体」「月経と向き合う」 「アスリートとして」 講師 高尾美穂
研修④	目標を言語化する 「目標設定(サッカー、キャリア、社会)」 「自分の目標を言葉にしよう」 「グループディスカッション」 講師 大浦征也		社会課題 X スポーツ 女性活躍、男女共同参画の実現のため「女性アスリート」を支援。 女性アスリート活躍推進の財源確保のため、施策として税制優遇措置を設けた。

JFA | **.WE** LEAGUE 海外事例を知る

● UEFA Assist プログラム (イングランド FA 事例)

2021年に引き続き、ヨーロッパサッカー連盟 (UEFA) の「UEFA Assist プログラム」の一環として、ヨーロッパの先行事例を学ぶ機会を得ました。

UEFA 女子 EURO (欧州女子選手権) 2022を開催し、そこで優勝を果たし、今最も女子サッカーが発展してい

©JFA/PR



る国の一つであるイングランドから、グラスルーツ担当者のルイズ・ギアさんを招き、女子サッカーの普及拡大の事例について学びました。女子サッカー関係者を中心に約250人が参加しました。

● UEFA女子EURO 2022

6月に開催されたUEFA女子EURO 2022では、女子サッカーの歴史の原点に立ち返る発信が多数見られました。約50年の中で男子のサッカーの歴史とは異なる大きな発展を遂げ、近年、急激な進歩を遂げてきた女子サッカーを明確に表現することになった大会でした。ここまでの歴史を切り開いてきた女性たちや、サポートしてくれた仲間たちへの感謝とともに、この先の歴史の中でさらに発展した女子サッカーを送っていくことになる、現代の私たちの責務が確認されていました。

また、決勝戦に際して、「女子サッカーの今後を見据えて」というテーマでUEFA主催のフォーラムが開催されました。女子サッカーがもっと成長して拡大してほしい、満員のスタジアムが標準となってほしい、夢を実現させたい、そして今大会の成功を将来に向けてのベンチマークとしたい。“Raise the bar（水準を引き上げる）”の機会とするためのフォーラムとなりました。

大会としては、大観衆に後押しされたホスト国のイングランドが優勝を果たし、大成功を収めました。決勝戦の会場はロンドンのウェンブリースタジアムで、8万7192人が詰め掛けました。2019年のFIFA女子ワールドカップがトリガーとなり、今大会が新たなファンを生み出しました。女子サッカーが周縁から本流に、サッカーのファンがサッカーを見てサッカーの会話をした大会と評されました。

ベスト4進出チームのうち、イングランド、ドイツ、フランスの3チームが女性監督でした。イングランド女子代表の監督は、前回大会で優勝したオランダ女子代表を率いていたサリナ・ヴィーフマン監督です。ワールドカップ後にイングランド女子代表監督となり、UEFA女子EUROは2連覇となりました。なお、全体の女性監督の数は、16チーム中6チーム（前回大会と同じ）でした。

ちなみに、イングランドサッカー協会（FA）では2022年1月より新会長が就任し、新体制となりました。サッカーの母国であるイングランドFAの157年の歴史で、初の女性会長が誕生しています。

● ワールドリーグフォーラム

UEFA女子EURO 2022の期間中にワールドリーグフォーラムが開催されました。女子サッカーリーグのフォーラムを、今回は女子EURO開催に際して現地で実施し、主要11カ国のリーグが参加しました。共に発展していく仲間として、課題や好事例を共有し、さまざまなトピックが議論されました。今後に向けて、カレンダーやセーフガーディング、ビジネスチャンスやプロモーションなどについて、議論を重ねていく旨が約束されました。

● 海外リーグとの連携

WEリーグは、スペインのラ・リーガおよびイングランドのFA女子スーパーリーグ(Women's Super League: WSL)とパートナーシップ協定を結んでいます。サッカーのオン・ザ・ピッチの情報をはじめ、組織、女性リーダー育成、マーケティング、グラスルーツなどの知識を、ヨーロッパの中でも成長目覚ましいスペインおよびイングランドのリーグと交換し、将来的には交流試合の開催や人事交流にもつなげていきます。



WEリーグ公式 Web サイト

スペインプロリーグ「ラ・リーガ」との協定締結
参照：<https://weleague.jp/news/570/>



WEリーグ公式 Web サイト

イングランドサッカー協会との協定締結
参照：<https://weleague.jp/news/860/>

原則 5



取り組み報告

事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

JFA 協賛企業との取り組み

JFAとして、協賛企業とさまざまな事業・活動を実施しています。

MS&ADカップ2022では、ピンクリボン運動の一環としてなでしこジャパンはピンク色のジャージを着用した



©JFA

アディダス「HER TEAM」プロジェクト



取り組み概要 女子サッカー選手の5人に1人が、13歳になったタイミングでサッカーをやめてしまうという課題を解決すべく、ボトルネックとなっている中学生世代（3種）の女子サッカークラブの創設支援をJFAとアディダス ジャパン株式会社が連携して行うプロジェクト。本プロジェクトから、初年度の2020年は10チーム、2021年は10チームの計20チームが新設され、チームユニフォームやサッカークリニックなどのサポートが参画チームに提供された。

MS&ADカップ2022開催



©JFA/PR

取り組み概要 MS&AD インシュアランスグループとして2015年より日本代表戦での特別協賛をスタートしている。2022年には特別協賛として7回目の「MS&AD カップ2022」を開催した。

【対象試合】

10月9日 vs ニュージーランド女子代表
(長野県・長野Uスタジアム)

試合の前週には開催地の長野県で、小学生低学年女子を中心に親子参加の「MS&AD サッカー教室」を開催。親子229人が参加した。

JFA Magical Field Inspired by Disney

取り組み概要 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社のコンシューマ・プロダクツ部門と共に、女子サッカーの新プロジェクト「JFA Magical Field Inspired by Disney」が2022年7月に発足した。

このプロジェクトでは、JFA 中期計画内で「重点3領域」に位置づけている「女子」や「4種年代」における取り組みをディズニーと共に進めていくことで、サッカーファミリーのさらなる広がり、そしてサッカーファミリーの方々のさらなる楽しみを醸成するためのプログラムを提供する。

新プロジェクトのキックオフとして、ディズニープリンセスを起用し、小学生サッカー未経験者を対象とし、誰でもサッカーを楽しめる「JFA ファミリーサッカーフェスティバル“First Touch”」を7月16日より全国7カ所で開催。参加費は無料で、参加者にはディズニープリンセスがデザインされた本イベント限定のユニフォームとボールをプレゼントし、イベント後もサッカーを続けるサポートを行う。本プロジェクトのキャプテンに澤穂希さんが就任し、すべての女性のチャレンジに寄り添っていく。



[ダイハツ] 全日本高等学校女子サッカー選手権大会への協賛



©JFA/PR

取り組み概要 ライフステージに合わせて女子サッカーをサポートすることで、幼児・小学生までを含めた若年層に夢を与え、皆さまの暮らしを豊かにしていきたいという想いのもと、ダイハツ工業株式会社は2013年から、全日本高等学校女子サッカー選手権大会への協賛を行っている。その他、各地域販売店と一丸となり、地域のサッカーやイベントを支援している。

朝日新聞「Pink Ribbon Press」発行

取り組み概要 JFAが2019年から推進しているピンクリボン運動と連動し、日本代表サポーターカンパニーである朝日新聞とJFAが協力し、ピンクリボン運動に関する記事を掲載したタブロイド版の「Pink Ribbon Press」を発行している。

2020年は当時のなでしこジャパン監督である高倉麻子さん、2021年は元なでしこジャパンの丸山桂里奈さんを表紙・巻頭インタビューで取り上げ、ご自身の経験などからピンクリボン運動の重要性についてお話しいただいた。

2022年は乃木坂46の秋元真夏さんが表紙・巻頭インタビューに登場。乳がんの早期発見の大切さなど、20代のうちから正しい知識を身に付けることの重要性について語った。

今年もこの取り組みを広く発信するために、なでしこジャパンの国際親善試合来場者への配布やJFAメルマガ購読者への電子版の配信を実施した。

朝日新聞 Pink Ribbon Press
ピンクリボン新聞

**乳がんは怖くない
身近に感じることが
大切**

乳がんという言葉を、ちょっとだけ恐怖心を抱いていた。「その言葉を聞かなくていい、あまり目にしたくないなって、マイナスのイメージが強かったんです。でも、参加させて貰ってからは距離感というか、怖くも思わぬ距離に感じるこの方が大切な人だと学びました」

恐怖心の解きほぐされたのは、ちょうど1年前。「ピンクリボンフェスティバル2020」のセミナーに参加したことがきっかけだった。20代から30代に向けてセミナーで、正しい乳がんの知識を学んだ。日本の乳がん検診の受診率が低い現状を、かつての自分に重ね合わせた。「乳がん検診を受けたくない気持ちも、すごく分かります。もし乳がんが見つかったら怖くないですか。でも、早期発見できれば怖くないのが乳がん。もう、怖くはありません」

乳がんを身近に感じられるようになったのは、年齢など日常生活の中で乳腺の変化を認識するプレスト・アウェアネスだ。少しでも変化に気づいたら検診に相談することで早期発見につながっていく。

日本女性の9人に1人が乳がんになる確率。「大切な人を見失いたくないためにも、気軽にプレスト・アウェアネスを続けていきたいと思います」
【原稿提供】

Front Talk
秋元真夏 (乃木坂46キャプテン)
AKIMOTO Manatsu
1992年生まれ。高校時代に乃木坂46の1期生オーディションで合格し、大学進学後から本格的に活動を開始。2012年のシングル「制服のマネキン」で国民的スターに選ばれた。13年から15代目キャプテンに就任。趣味は料理。

PINK RIBBON CAMPAIGN
鏡を見るのは、ファッションだけじゃない。
乳がん検診も「検診、ネガティブすぎるよ」
「乳、胸のケアもファッション感覚で」
11月、ホーム文芸春秋増刊号
本誌発行記念号に乳がん検診の大切さを伝えています。
あなたのパートナーや家族にも
「あや神さん」、「なまから」も読んでみてね。お話を聞くと、
乳がん検診がもっと身近に感じられますよ。

[マイナビ] 全日本高等学校女子サッカー選手権大会への協賛やWEクラブの運営



取り組み概要 この大会から数多くの選手がWEリーグやなでしこリーグをはじめ、世界レベルで活躍してほしいという想いから、株式会社マイナビは全日本高等学校女子サッカー選手権大会への協賛を実施。また、WEリーグに加盟するマイナビ仙台レディースを運営するなど、女子サッカーの支援に注力している。

WE LEAGUE パートナー各社との取り組み

WEリーグでは、パートナー各社とのさまざまな事業・活動を進めています。

WEリーグは2021-22シーズンよりYogiboと
タイトルパートナー契約を締結



©WEリーグ

▶ WEリーグパートナー各社の協賛趣旨（ダイバーシティ&インクルージョン関連事項抜粋）

会社名	協賛主旨
株式会社 Yogibo	WEリーグクラブを中心に、センサリールームの常設化を通して「ストレスのない社会」を実現したい
ダイハツ工業株式会社	販売会社とともに、全国津々浦々で女子サッカーを通じて子どもたちの夢や応援する親御さんに寄り添い、草の根活動に取り組みたい
株式会社プレナス	「ほっともっと」「やよい軒」の運営において多くの女性に支えられているプレナスは、もっと多くの女性が活躍できる社会の実現を目指すとともに、世の中のがんばる女性を応援したい
株式会社ビーズインターナショナル (X-girl)	選択肢の多様化が進む中、X-girlはWEリーグと一緒に現代の若い女性が自分らしく生きるための「GIRL'S MOVEMENT」を起こす。2022-23シーズンは、6クラブのユニフォームを製作。東京・国立競技場を舞台にビジュアル撮影を行い、WEリーガーの新たな魅力を発信
旭化成ホームプロダクツ株式会社	サステナビリティ視点での情報発信（時短テクニックで仕事と家事の両立を支援し、男女共同参画社会の実現に貢献したい）
パーソルホールディングス株式会社 パーソルテンプスタッフ株式会社 パーソルキャリア株式会社	女性アスリートの柔軟で多様なはたらき方・キャリア形成を支援、また「WEリーグ」に関わる選手・スタッフへのキャリア支援を通じ、女性のさらなる活躍の場の拡大への貢献とともに「はたらいて、笑おう。」の実現を推進したい
TRE ホールディングス株式会社	SDGsのうち、特にジェンダー平等と女性の活躍を主眼として発足したWEリーグの理念に共鳴し、サポート・コラボレーションすることで、ジェンダー平等とSDGsの取り組みを推進し、環境問題を含めた社会課題解決へも積極的にアクションを起こしていく
DAZN Japan Investment 株式会社	DAZNならびにDAZNの持つ360度のあらゆるチャンネルで女子サッカー・女子スポーツの魅力伝えていきたい。スポーツを文化に、そしてスポーツの力でより豊かな社会を築く



グラスルーツパートナーのダイハツ工業様より、WEリーグアウォーズ特別賞として各クラブヘボールが寄贈された。子どもたちの夢を応援し、将来のWEリーガーを生むきっかけづくりに協力いただいている



旭化成ホームプロダクツ様にはWE ACTION DAYの発信協力として、サララップ®の公式キャラクター「たぶん、クマ」がWE ACTION DAYに参加し、その様子をオウンドメディアに掲載いただいている



©WEリーグ

●新たなパートナーシップ

WE ACTION MEETING

WEリーグは理念の実現に向けて、クラブ・選手やリーグパートナー、メディアと連携したACTIONを実施するための会議「WE ACTION MEETING」を定期的に開催しています。

2021-22シーズンは課題の発見とリスト化をテーマに、全3回のミーティングを通して、参加者と一緒に200を超えるジェンダー課題を集約しました。2022-23シーズンは課題への解決アクションを起こしていきます。



WEリーグ公式 YouTube チャンネル

WE ACTION MEETING

参照：<https://youtu.be/DS71QMMSMj8>

ドキュメンタリー動画

「WE LIFE ~ WEリーグの主人公たち～」

WEリーグ周辺で働く方に密着する動画シリーズ。パーソルグループ様と協働し、「女性のネガティブ面ばかり取り上げられる問題」の解決アクションとして制作しています。性別を越えてさまざまな職業で活躍する様子を、動画を通じて社会に伝えることで、課題解決につなげています。

女子サッカー界として、ジェンダー課題というネガティブな面を浮き彫りにするよりも、女子サッカーが持つポジティブな面がもっと取り上げられるべきです。女性が活躍していることに目を向けてもらうことを目指しています。



2022-23 WEリーグカップ決勝でのWE ACTION

「男女の色問題」「女の子マーク、スカート問題」の解決アクションの一つとして、会場内でトイレマークのデザイン投票を実施しました。日常の中に当たり前にあるアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）に気付くきっかけづくりを行いました。

また、「セクシュアルマイノリティへの知識不足問題」の解決アクションの一つとして、プライドハウス東京アスリート発信チーム等と連携して、ジェンダー・多様性情報発信ブースを会場に展開しました。

〈「男女の色問題」「女の子マーク、スカート問題」〉

トイレは、男が青で女が赤という勝手なイメージがある。マークのシルエットも女性はスカートを履いている。男性もスカートのようなものを履くし、女性でもスカートが嫌な人もいる。もっと大きな枠で考えてマークをつくってほしい。

〈「セクシュアルマイノリティへの知識不足問題」〉

学校の授業で子どもたちに教えるなど、根本的にセクシュアルマイノリティについての知識がもっともっとたくさんの人に広まる必要がある。



©WEリーグ



©WEリーグ



WEリーグクラブとパートナーが協力して、ACTIONを起こしていくためのWE ACTION MEETINGを開催している



地域における リーダーシップと参画

一般スポーツ団体向けのガバナンスコードでは、中央競技団体向けとは異なり、組織運営、編成に関する数値目標は挙げられていません。しかし、国内競技連盟(NF)に準じる公共性の高い団体であり、中央競技団体向けのを参照しつつ、役員等の多様性の確保に取り組んでいくことが重要です。クラブやリーグ、連盟もこれに準じると考えます。

下表では、47都道府県サッカー協会(FA)における女性の人数と割合、そしてJFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラム(詳細は27ページ参照)受講者の所属内訳を示しています。役員を増やしていくためにも、サッカー界全体で、女性があらゆる場に一定数いて、そ

のポテンシャルを発揮できる状態になっていることが大切です。

2022年に多くの団体で役員改選があり、下表の通り女性副会長、常務理事、専務理事の配置、あるいは女性理事が増加しました。昨年、年次レポートを作成し、47FA、加盟団体などに共有させていただき、そのことで意識していただく協会、団体が増えたのかもしれない。

本レポートや研修機会の提供などで、この課題の改善に向けた取り組みをさらに共有し、共に取り組んでいきます。

▶ 47FAにおける女性の人数と割合

	人数	前年	女性理事数	理事総数	女性割合	女性理事数	FA数	前年	女性割合	FA数
会長	0	0	81 [60]	1,140 [1,123]	7.1% [5.3%]	0	12	15	0~1%未満	12
副会長	9	5				1	13	13	1~5%未満	10
常務理事	4	3				2	11	13	5~10%未満	12
専務理事	1	0				3	3	5	10~15%未満	6
理事	67	52				4	4	0	15~20%未満	6
監事	7	2				5	2	1	20~25%未満	1
特任理事	4	7				6	2	0	25~30%未満	0
合計	92	69	JFA評議員	4	(長野県FA、和歌山県FA、なでしこリーグWEリーグ)	合計	47	47	合計	47

カッコ内は前年の数値
※評議員総数は79

▶ JFA/WEリーグ女性リーダーシッププログラム受講者の所属内訳(人)

	47FA	WEリーグ クラブ	なでしこリーグ クラブ	Jリーグ クラブ	女子フットサル リーグクラブ	リーグ・ 連盟	JFA
第1期 (北海道、埼玉県、佐賀県)	3	3	2	0	0	3	1
第2期 (富山県、愛知県、兵庫県)	3	4	3	0	0	2	0
第3期 (北海道、神奈川県、広島県)	3	2	1	2	1	2	1



透明性、成果の測定、報告

本原則に対する取り組みは、まさにこのレポートです。年次レポートを作成して現状や成果をフォローし、また好事例を共有しつつ、課題に対して一つ一つ粘り強く取り組んでいきます。昨年、1年目のレポートを作成して発信したことで、サッカーファミリーの皆さんに情報を届け、各組織の中でご検討いただけたケースが多くあったことを実感しています。本レポートをサッカー界で共

有することで、この課題自体への理解を広げるとともに、さらに深めていただき、課題意識を持つ仲間を増やしていきます。

【関連の取り組み】

- 「女性登用の見える化」と各クラブによる「WE ステートメント」(14~17ページ参照)

▶ 女性活躍推進活動の振り返り(一覧)

	JFA	JFA&WEリーグ	WEリーグ
原則 1	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの取り組み ● なでしこ vision ● JFA 女子サッカーデー ● JFA 規則：妊娠/出産に関わる契約上の不利益の禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ● WE リーグ開幕 ● なでしこリーグビジョン・ステートメント 	<ul style="list-style-type: none"> ● WE リーグの名称とロゴ ● WE リーグの理念とビジョン ● 理念推進のために設定した参入基準 ● WE リーガークレド (行動規範) ● 優勝チームに贈られる「WE リーグトロフィー」 ● 理念推進日「WE ACTION DAY」
原則 2	<ul style="list-style-type: none"> ● サッカーファミリーにおける女性の人数 ● JFA の役員・職員等における女性の人数 ● 女性指導者 ● 国際的に活躍する女性指導者 ● 女性審判員 		<ul style="list-style-type: none"> ● WE リーグの役員・職員等における女性の人数 ● WE リーグの女性登用の見える化 ● WE STATEMENT 2022 ● あらゆる場面での女性の活躍
原則 3	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性審判員の産前・産後サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェルフェアオフィサー制度 ● ピンクリボン運動への取り組み ● 現役選手の産前・産後サポート 	
原則 4		<ul style="list-style-type: none"> ● JFA/WE リーグ 女性リーダーシッププログラム ● WE リーガー「FOOTBALL を学ぼう！」セミナー ● 海外事例を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ● WE リーガー研修
原則 5	<ul style="list-style-type: none"> ● 協賛企業との取り組み 		<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー各社との取り組み
原則 6	<ul style="list-style-type: none"> ● 47FA における女性の人数と割合 	<ul style="list-style-type: none"> ● JFA/WE リーグ 女性リーダーシッププログラム受講者 	
原則 7		<ul style="list-style-type: none"> ● 年次レポート作成 	

※競技そのものに関わる項目は除外して記載

女子サッカーインフォメーション

国民体育大会 少年女子の部 (U-16) 開始



コロナ禍で2年間開催されなかった国民体育大会（国体）が、2022年10月、3年ぶりに栃木県で開催されました。国体は従来、成年男子、少年男子、女子という3種別でしたが、女子サッカーの発展のために女子を成年女子、少年女子に分け、合計4種別、成年男女を隔年開催とさせていただきます。2022年の第77回・栃木国体から少年女子の部がスタートし、初年度は東京都の優勝で幕を閉じました。都道府県内での一貫指導体制の確立、種別を越えた連携など、女子サッカーの強化、育成、指導者養成、普及の全てに関わる大きな改革として大いに期待されます。

育成年代の日本女子代表
FIFAワールドカップにてフェアプレー賞を獲得

2022年8月にFIFA U-20女子ワールドカップ、同10月にFIFA U-17女子ワールドカップが開催され、育成年代の日本女子代表が出場しました。U-20日本女子代表は準優勝、U-17日本女子代表はベスト8という結果でしたが、両チームともにフェアプレー賞を獲得しました。そのパフォーマンス、フェアな戦いとともに、サッカーに誠実に向き合う姿勢、対戦相手や審判はもちろん、関係者に対してリスペクトあふれる態度で接してきたことで、大会が進むにつれてみんなに愛され、応援されるチームとなりました。

日本は全カテゴリーの女子ワールドカップで優勝を経験している唯一の国ですが、そのすべての大会で優勝とともにフェアプレー賞を獲得しています。男子のFIFAワールドカップでも、チームや関係者のリスペクトあふ

れる姿勢が話題となりました。大切にしていきたい価値観です。

それを続けていくべく、JFA U-18女子サッカーファイナルズ、高円宮妃杯 JFA 全日本U-15女子サッカー選手権大会、JFA 全日本U-18女子サッカー選手権大会などでキャプテンミーティングを開催。リスペクト・フェアプレーの意味をあらためて共有し、大切にしています。

©2022 FIFA



女子サッカーレガシープログラム



「レガシー」とは「後に残る財産」を意味し、日本代表戦や全国大会の開催に際し、開催地でさまざまなイベントや取り組みを実施することで、その地に財産を残してさらに発展させていく契機とする考え方です。女子サッカーレガシープログラムの開催にあたっては、現地の女子サッカー普及コーディネーターや都道府県サッカー協会と連携して企画・運営を行います。

2022年は、10月に兵庫県と長野県で開催されたなでしこジャパンの国際親善試合とMS & ADカップ2022、栃木県で開催された第77回国民体育大会などでさまざまなプログラムが実施されました。



JFA公式Webサイト

参照：http://www.jfa.jp/women/legacy_program/

中学校女子サッカー部フェスティバル

U-15年代の環境を改善すべく、中学校女子サッカー部の存在・活動を広く知ってもらい、またその活動を支援する、創部間もない、人数が少ないなど、大会や公式戦に出場できないチームの選手でもサッカーを楽しみ、サッカーを通じて仲間ができる機会をつくり、活動開始や継続をサポートすることを目的に、中学校女子サッカー部フェスティバルを開催しています。中学校女子サッカー部の選手や、普段は部活動で男子とプレーしている選手など、多くの女子選手が参加しています。

2022年は、熊本県、大阪府、千葉県の3か所で開催。多くの仲間たちと出会い、刺激を受ける機会となっています。



